

個別事項「指針の遵守」

市町村名

横浜市

評価	(要改善項目数)	【県コメント】まずはB評価に向けて指針の再確認及び改善項目を確認してください
C5～	(5項目)	

別紙2

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
[令和4年2月3日付け青が生第1693号通知]

※要改善項目が、評価A:0項目、評価B:1項目、評価C2～:2～4項目、評価C5～:5項目以上

がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針（厚生労働省健康局長通知）に基づき、がん検診を実施する必要があり、評価が×の項目は○となるよう改善が必要です。

検診		令和3年度	
種類	方式	検査方法	評価
		対象者 検診間隔	
胃がん検診 (X線)	集団	問診、胃部エックス線検査	○
		40歳以上の男女	○
		年1回	○
	個別	問診、胃部エックス線検査	○
		40歳以上の男女	○
		年1回	○
胃がん検診 (内視鏡)	集団	—	
		—	
		—	
	個別	—	
		—	
		—	
大腸がん検診	集団	問診・便潜血検査(2日法)	○
		40歳以上の男女	○
		年1回	○
	個別	問診・便潜血検査(2日法)	○
		40歳以上の男女	○
		年1回	○

検診		令和3年度	
種類	方式	検査方法	評価
		対象者 検診間隔	
肺がん検診	集団	質問・胸部エックス線検査・喀痰細胞診	○
		40歳以上の男女(喀痰:50歳以上で喫煙指数600以上の男女)	○
		年1回	○
	個別	質問・胸部エックス線検査	×
		40歳以上の男女	×
		年1回	○
乳がん検診	集団	問診・乳房エックス線検査	○
		40歳以上の女性	○
		2年に1回(対象年度以外は受診不可)	×
	個別	問診・乳房エックス線検査	○
		30～39歳、40歳以上の偶数年齢の女性	×
		2年に1回(対象年度以外は受診不可)	×
子宮頸がん検診	集団	問診・視診・内診・細胞診(液状検体法)	○
		20歳以上の女性	○
		年1回	×
	個別	問診・視診・内診・細胞診(液状検体法)	○
		20歳以上の女性	○
		年1回	×

改善が必要な事項 (評価が×の項目について)	
胃がん検診 (X線)	
胃内がん検診 (視鏡)	
大腸がん検診	
肺がん検診	・検査方法の遵守が求められる(質問、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診) ・対象者の遵守が求められる(対象は40歳以上の男女及び喫煙は50歳以上で喫煙指数600以上の男女)
乳がん検診	・対象者の遵守が求められる(対象は40歳以上の女性) ・検診間隔は2年に1回であり、かつ、対象年度に未受診の場合、次年度受診できる体制が求められる
子宮頸がん検診	・検診間隔は2年に1回であり、かつ、対象年度に未受診の場合、次年度受診できる体制が求められる

出典：令和3年度がん検診に関する調査（がん・生活習慣病対策課調べ）

※評価は「指針を遵守=○」、「事業全体としては指針を遵守=(○)」、「遵守していない=×」で表しています。

個別事項「市町村チェックリスト」

市町村名 **横浜町**

評価	(R2実施率平均)	【県コメント】A評価に向けて実施率が極端に低い検診がないか再確認するとともに、優先的に取り組む事項の実施を目指してください
B	(88.7%)	

※実施率平均が、評価A:90%以上、評価B:80%以上90%未満、評価C:80%未満

①チェックリスト実施率の状況

チェックリスト実施率は、検診で最低限整備するべき技術・体制の自己点検結果であり、100%を目指します。(グラフの◆は貴市町村、●は他市町村を表します。)

検査方法	検診方式	R1実施率	R2実施率
胃がん検診 (X線)	集団	90.4%	90.4%
	個別	84.6%	86.5%
胃がん検診 (内視鏡)	集団	—	—
	個別	—	—
大腸がん検診	集団	90.4%	90.4%
	個別	84.6%	86.5%
肺がん検診	集団	90.2%	90.2%
	個別	84.3%	86.3%
乳がん検診	集団	90.9%	90.9%
	個別	85.5%	87.3%
子宮頸がん検診	集団	90.9%	90.9%
	個別	85.5%	87.3%

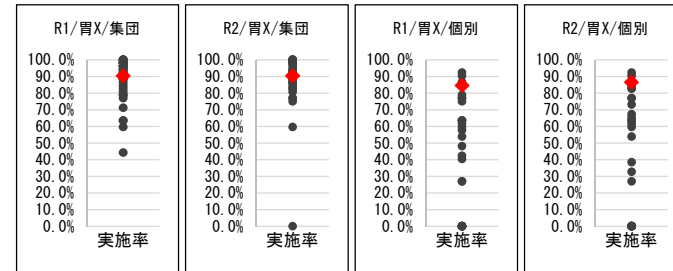
優先的に取り組む必要がある事項

実施率向上にあたっては、次の項目に特に優先的に取り組んでください。

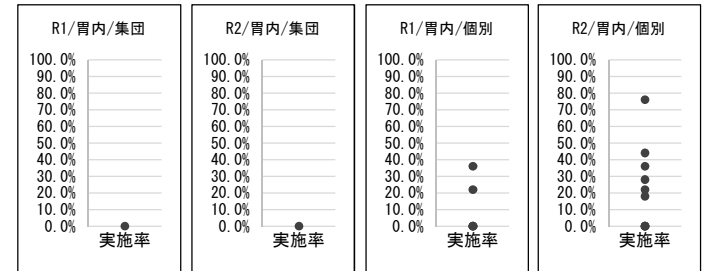
問4-3 精検結果等の共有

問3-2 精密検査機関一覧の提示

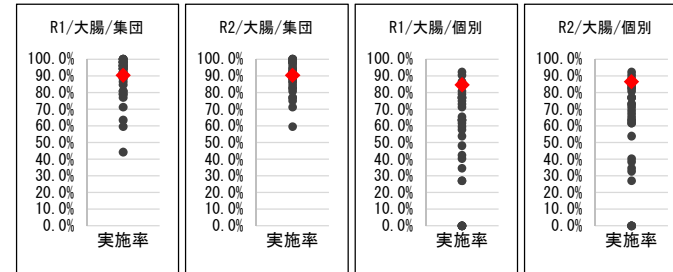
①胃がん検診 (X線) C L 実施率



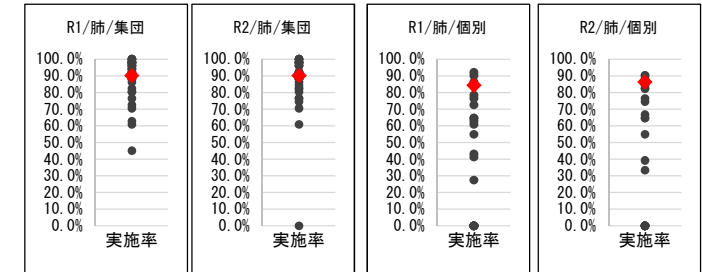
②胃がん検診 (内視鏡) C L 実施率



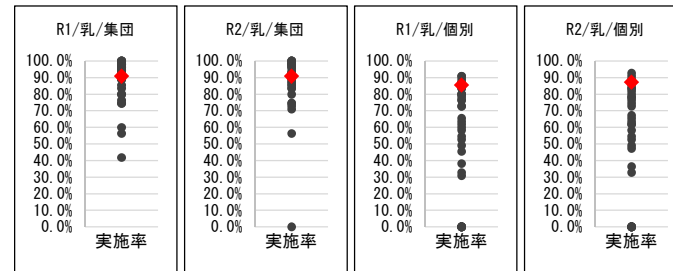
③大腸がん検診 C L 実施率



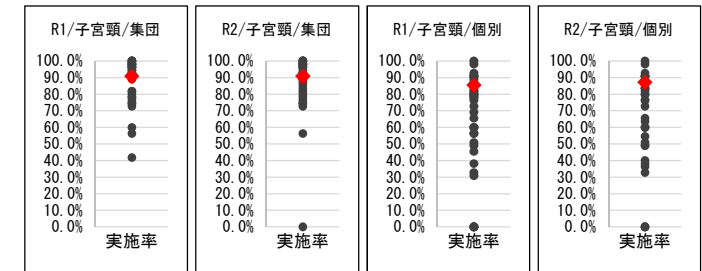
④肺がん検診 C L 実施率



⑤乳がん検診 C L 実施率



⑥子宮頸がん検診 C L 実施率



出典：各年度の事業評価のためのチェックリスト調査（国立がん研究センター、青森県がん・生活習慣病対策課）

※実施率は「○（実施）」の項目を集計したものです。また、前々年度のがん検診が未実施の場合は、問7以降が「-（非該当）」となるため実施率は低くなります。

※前々年度にがん検診を実施している場合、当該年度のがん検診が未実施でも問7以降の回答が必要なため実施率の算出が可能ですが、本資料では実施率の掲載はしていません。（「-」と表示）

個別事項「プロセス指標」

自治体名 **横浜町**

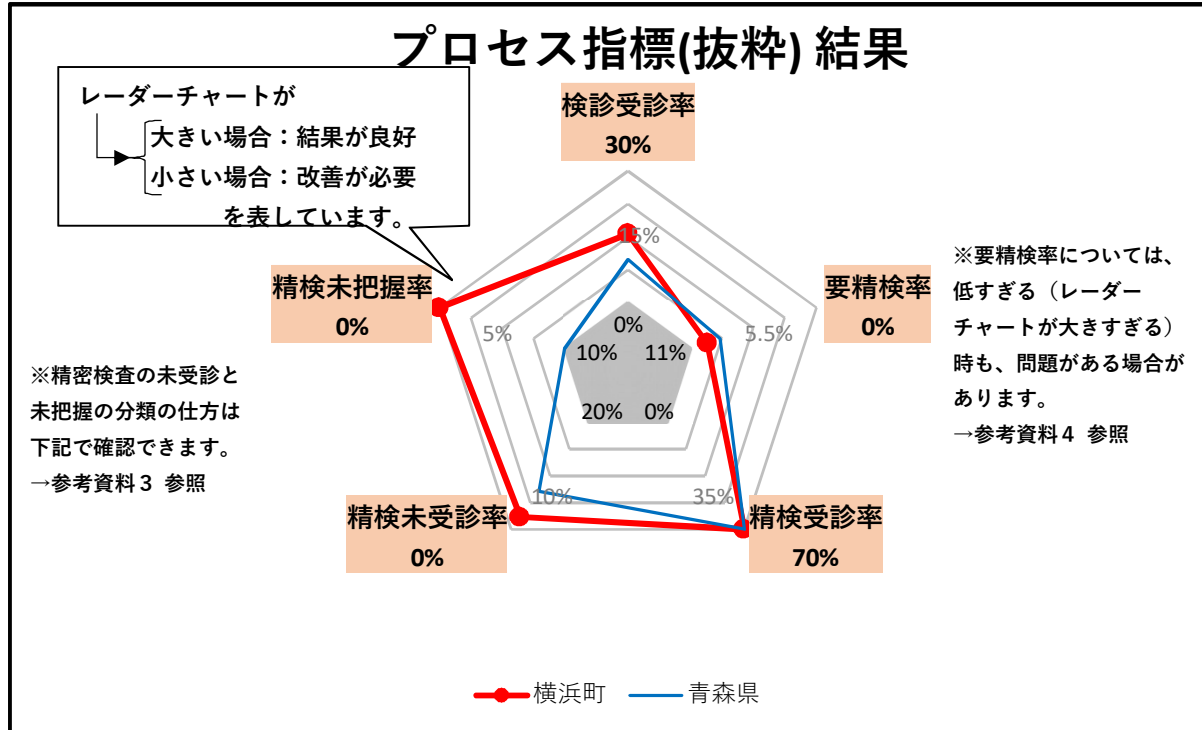
胃がん検診（胃部X線）

プロセス指標	許容値等	横浜町	上十三圏域	青森県	全国	対象年度	対象年齢
検診受診率	30%以上※	15.7%	11.8%	9.9%	3.4%	令和元年度	40～74歳 男女計
要精検率	11.0%以下	9.5%	8.1%	8.4%	6.6%	平成30年度	40～74歳 男女計
精検受診率	70%以上	97.7%	84.1%	82.9%	81.4%	平成30年度	40～74歳 男女計
精検未受診率	20%以下	2.3%	8.2%	7.1%	7.0%	平成30年度	40～74歳 男女計
精検未把握率	10%以下	0.0%	7.7%	10.0%	11.7%	平成30年度	40～74歳 男女計
陽性反応適中度	1.0%以上	2.2%	1.1%	1.2%	1.5%	平成28～30年度	40～74歳 男女計
がん発見率	0.11%以上	0.25%	0.09%	0.11%	0.10%	平成28～30年度	40～74歳 男女計

※1 プロセス指標で求められている目標値(50%以上)と算定方法が異なるため、便宜上30%を最大値としてグラフを作成する。

※2 胃管内視鏡検査も実施している場合、検診受診率が見かけ上、低くなっている可能性がある。

【県コメント】



個別事項「プロセス指標」

自治体名 **横浜町**

胃がん検診（胃部内視鏡）

プロセス指標	許容値等	横浜町	上十三圏域	青森県	全国	対象年度	対象年齢
検診受診率	30%以上※	—	—	0.5%	1.3%	令和元年度	50～74歳 男女計
要精検率	11.0%以下	—	—	5.3%	7.5%	平成30年度	50～74歳 男女計
精検受診率	70%以上	—	—	94.7%	92.7%	平成30年度	50～74歳 男女計
精検未受診率	20%以下	—	—	0.0%	1.5%	平成30年度	50～74歳 男女計
精検未把握率	10%以下	—	—	5.3%	5.8%	平成30年度	50～74歳 男女計
陽性反応適中度	1.0%以上	—	—	7.7%	3.7%	平成30年度	50～74歳 男女計
がん発見率	0.11%以上	—	—	0.40%	0.28%	平成30年度	50～74歳 男女計

※1 プロセス指標で求められている目標値(50%以上)と算定方法が異なるため、便宜上30%を最大値としてグラフを作成する。

※2 2年連続受診者の算定が困難であるため、その者がいた場合、検診受診率に含まれている。

【県コメント】

<検診受診率>
対象年度の受診者が0人のためグラフ表示しません。

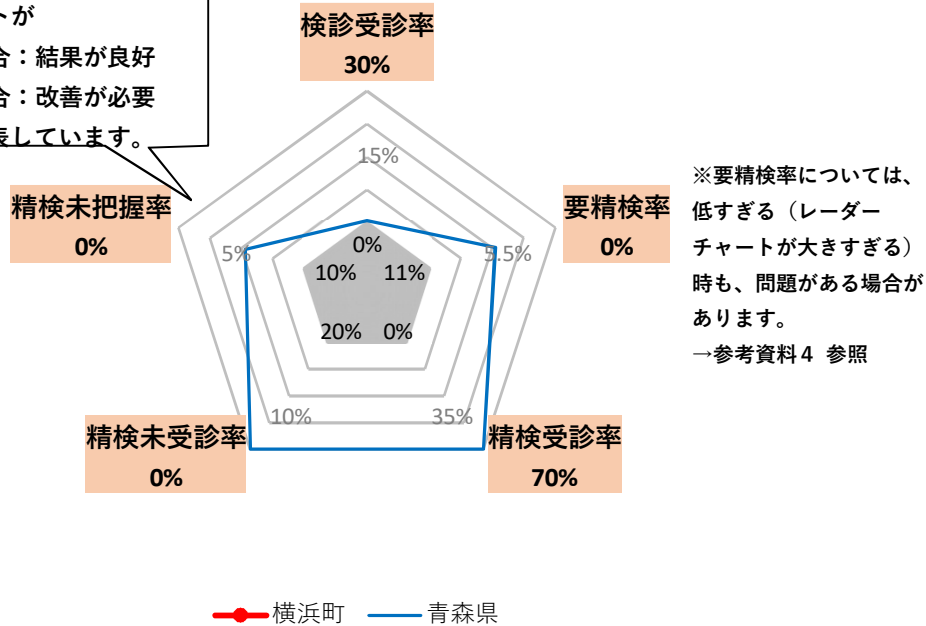
<要精検率>
対象年度の受診者が0人のためグラフ表示しません。

<精検受診率>/<精検未受診率>/<精検未把握率>
要精密検査者が0人のためグラフ表示しません。

プロセス指標(抜粋) 結果

レーダーチャートが
大きい場合：結果が良好
小さい場合：改善が必要
を表しています。

※精密検査の未受診と未把握の分類の仕方は下記で確認できます。
→参考資料3 参照



※要精検率については、低すぎる（レーダーチャートが大きすぎる）時も、問題がある場合があります。
→参考資料4 参照

個別事項「プロセス指標」

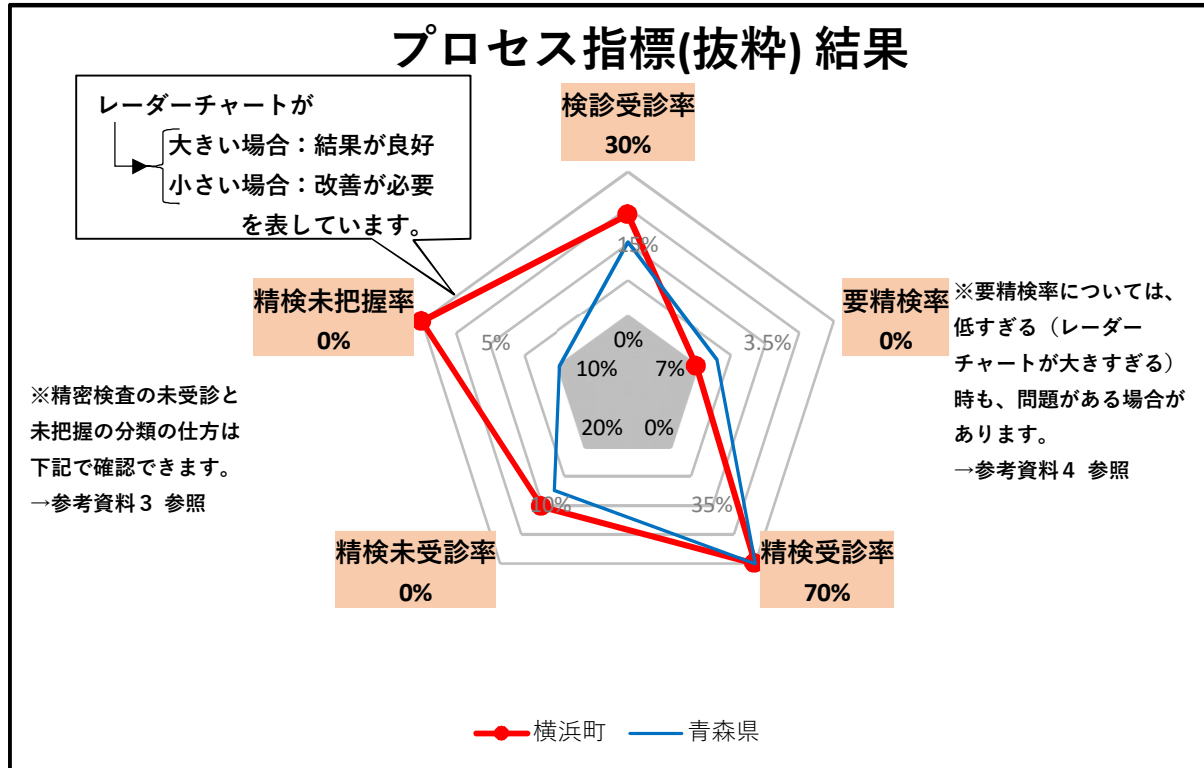
自治体名 **横浜町**

大腸がん検診

プロセス指標	許容値等	横浜町	上十三圏域	青森県	全国	対象年度	対象年齢
検診受診率	30%以上※	21.1%	16.8%	15.4%	9.6%	令和元年度	40～74歳 男女計
要精検率	7.0%以下	8.9%	5.7%	6.0%	6.2%	平成30年度	40～74歳 男女計
精検受診率	70%以上	90.2%	80.0%	75.4%	71.4%	平成30年度	40～74歳 男女計
精検未受診率	20%以下	9.8%	5.6%	12.6%	12.3%	平成30年度	40～74歳 男女計
精検未把握率	10%以下	0.0%	14.4%	12.0%	16.3%	平成30年度	40～74歳 男女計
陽性反応適中度	1.9%以上	0.0%	2.0%	3.1%	3.1%	平成28～30年度	40～74歳 男女計
がん発見率	0.13%以上	0.00%	0.12%	0.19%	0.20%	平成28～30年度	40～74歳 男女計

※プロセス指標で求められている目標値(50%以上)と算定方法が異なるため、便宜上30%を最大値としてグラフを作成する。

プロセス指標(抜粋) 結果



【県コメント】

<要精検率>
許容値以下となるよう、有症状者が検診を受けていないか検討するとともに、有病率の高い年齢層・初回受診者に偏っていないか、各検診機関の判定基準が適切か確認する必要があります。

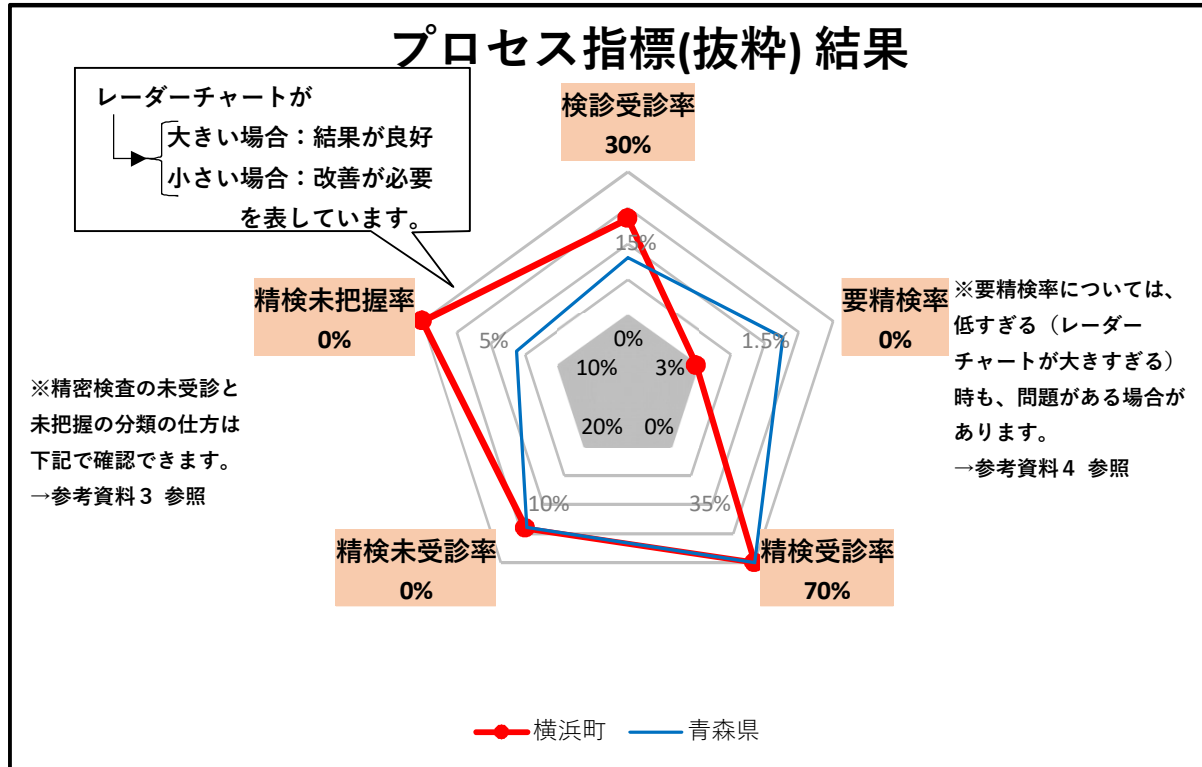
個別事項「プロセス指標」

自治体名 **横浜町**

肺がん検診

プロセス指標	許容値等	横浜町	上十三圏域	青森県	全国	対象年度	対象年齢
検診受診率	30%以上※	20.2%	15.2%	12.1%	8.7%	令和元年度	40～74歳 男女計
要精検率	3.0%以下	3.9%	1.4%	1.1%	1.8%	平成30年度	40～74歳 男女計
精検受診率	70%以上	94.1%	86.5%	87.0%	83.8%	平成30年度	40～74歳 男女計
精検未受診率	20%以下	5.9%	7.8%	6.1%	5.6%	平成30年度	40～74歳 男女計
精検未把握率	10%以下	0.0%	5.7%	6.9%	10.6%	平成30年度	40～74歳 男女計
陽性反応適中度	1.3%以上	0.0%	1.6%	2.9%	2.5%	平成28～30年度	40～74歳 男女計
がん発見率	0.03%以上	0.00%	0.03%	0.04%	0.05%	平成28～30年度	40～74歳 男女計

※プロセス指標で求められている目標値(50%以上)と算定方法が異なるため、便宜上30%を最大値としてグラフを作成する。



【県コメント】

<要精検率>
許容値以下となるよう、有症状者が検診を受けていないか検討するとともに、有病率の高い年齢層・初回受診者に偏っていないか、各検診機関の判定基準が適切か確認する必要があります。

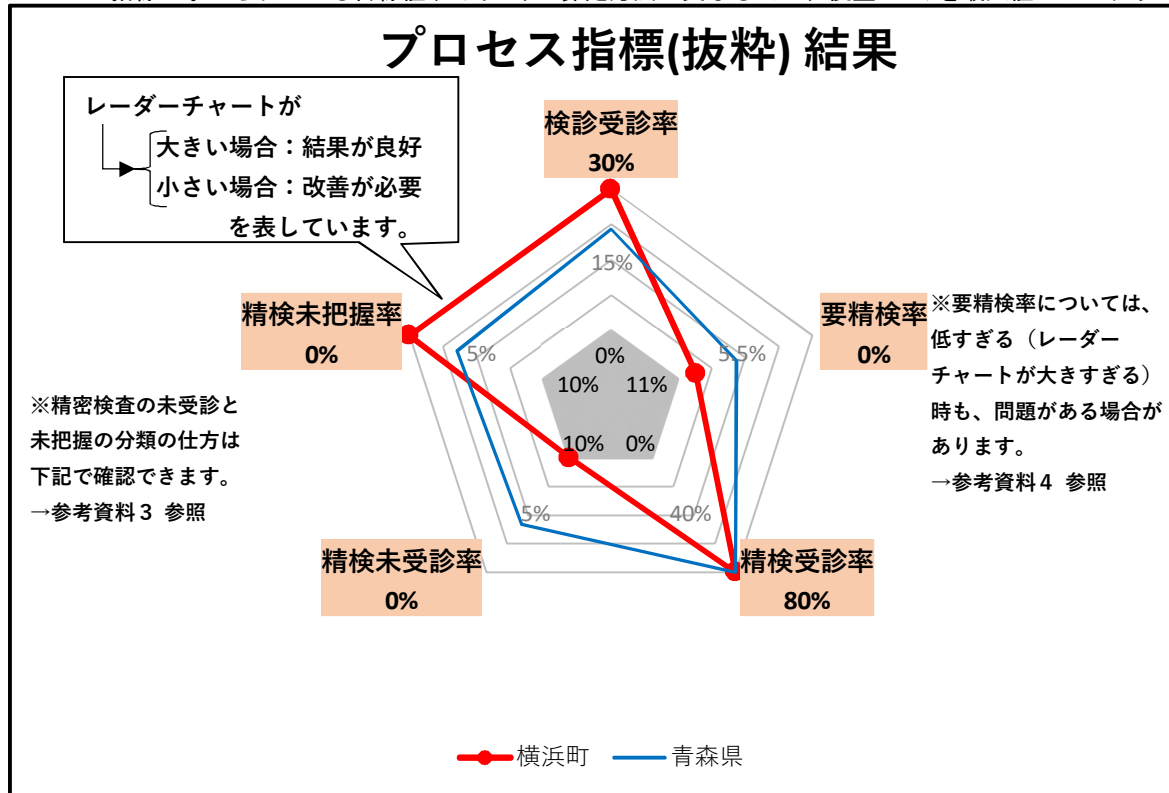
個別事項「プロセス指標」

自治体名	横浜町
------	-----

乳がん検診

プロセス指標	許容値等	横浜町	(うち前年度未受診)	(うち2年連続受診)	上十三圏域	青森県	全国	対象年度	対象年齢
検診受診率	30%以上※	30.3%	30.15%	0.19%	28.1%	21.5%	18.6%	平成30～令和元年度	40～74歳 女性
要精検率	11.0%以下	9.6%			5.2%	6.2%	6.3%	平成30年度	40～74歳 女性
精検受診率	80%以上	80.0%			91.2%	92.2%	89.2%	平成30年度	40～74歳 女性
精検未受診率	10%以下	20.0%			3.9%	4.2%	2.9%	平成30年度	40～74歳 女性
精検未把握率	10%以下	0.0%			4.9%	3.5%	7.9%	平成30年度	40～74歳 女性
陽性反応適中度	2.5%以上	3.7%			5.6%	5.0%	4.8%	平成28～30年度	40～74歳 女性
がん発見率	0.23%以上	0.20%			0.25%	0.31%	0.30%	平成28～30年度	40～74歳 女性

※プロセス指標で求められている目標値(50%以上)と算定方法が異なるため、便宜上30%を最大値としてグラフを作成する。



【県コメント】

<検診受診率(受診間隔)>
受診率は高いほうが望ましい指標ですが、受診間隔(2年に1回)は遵守する必要があります。

<精検未受診率>
許容値以下となるよう、精検受診勧奨が適切に実施できているか、精検受診者の利便性が確保できているか等検討してください。

個別事項「プロセス指標」

自治体名

横浜町

子宮頸がん検診

プロセス指標	許容値等	横浜町	(うち前年度 未受診)	(うち2年 連続受診)	上十三圏域	青森県	全国	対象年度	対象年齢
検診受診率	30%以上※1	39.2%	25.78%	13.47%	19.4%	20.5%	18.2%	平成30～令和元年度	20～74歳 女性
要精検率	1.4%以下※2	0.0%	-	-	1.7%	2.2%	2.1%	平成30年度	20～74歳 女性
精検受診率	70%以上	-	-	-	82.2%	85.7%	75.5%	平成30年度	20～74歳 女性
精検未受診率	20%以下	-	-	-	5.6%	4.9%	6.6%	平成30年度	20～74歳 女性
精検未把握率	10%以下	-	-	-	12.2%	9.4%	17.9%	平成30年度	20～74歳 女性
陽性反応適中度	4.0%以上※3	0.0%	-	-	2.1%	1.5%	1.5%	平成28～30年度	20～74歳 女性
がん発見率	0.05%以上※3	0.00%	-	-	0.04%	0.03%	0.03%	平成28～30年度	20～74歳 女性

※1 プロセス指標で求められている目標値(50%以上)と算定方法が異なるため、便宜上30%を最大値としてグラフを作成する。

※2 全国的に近年増加傾向にあり、今後の国の検討状況次第では許容値が見直される可能性があります。

※3 H26以降のがんの定義の変更により以前と比較し減少しているため、今後許容値が見直される可能性があります。

【県コメント】

<検診受診率(受診間隔)>

受診率は高いほうが望ましい指標ですが、受診間隔(2年に1回)は遵守する必要があります。

<要精検率>

極端に低値の場合、有病率の低い年齢層に偏っていないか、各検診機関の判定基準が適切か確認する必要があります。

<精検受診率>/<精検未受診率>/<精検未把握率>

要精密検査者が0人のためグラフ表示しません。

プロセス指標(抜粋) 結果

レーダーチャートが

大きい場合：結果が良好
小さい場合：改善が必要
を表しています。

精検未把握率
0%

検診受診率
30%

要精検率
0%

※要精検率については、
低すぎる(レーダー
チャートが大きすぎる)
時も、問題がある場合が
あります。

→参考資料4 参照

精検未受診率
0%

精検受診率
70%

● 横浜町 ● 青森県

※精密検査の未受診と
未把握の分類の仕方は
下記で確認できます。
→参考資料3 参照

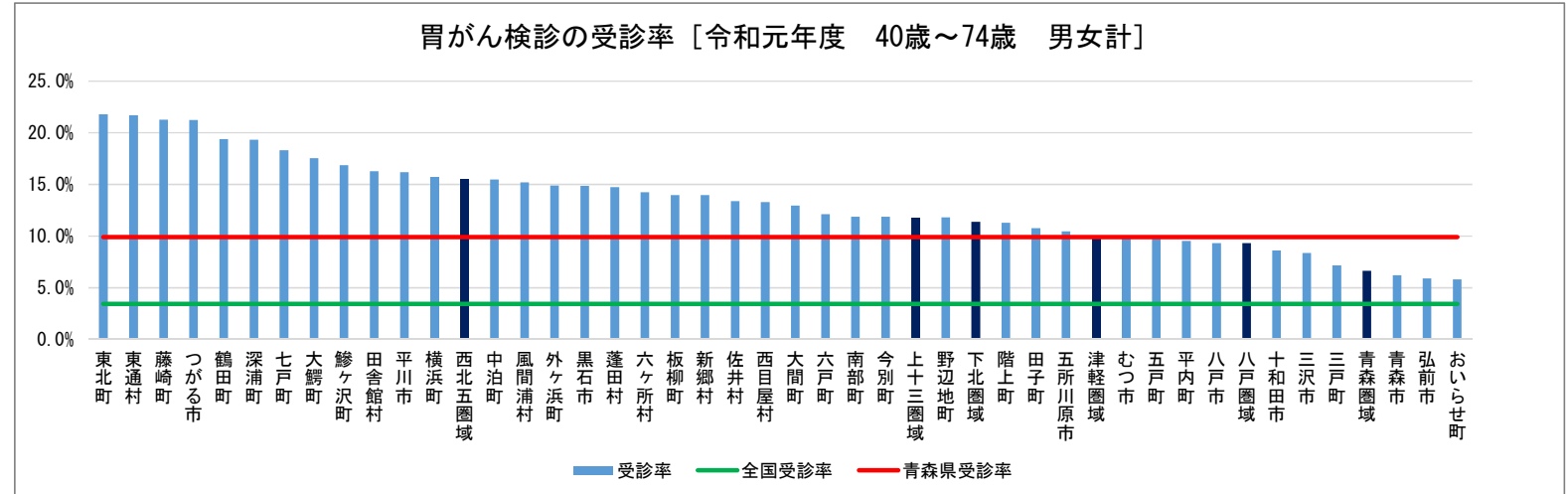
個別事項「プロセス指標」

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
 [令和4年2月3日付け青が生第1693号通知]

令和元年度 胃がん検診（胃部X線）プロセス指標－受診率－

自治体名 **横浜町**

1. 胃がん検診（胃部X線）の受診率



指標の意義・一般的な対策

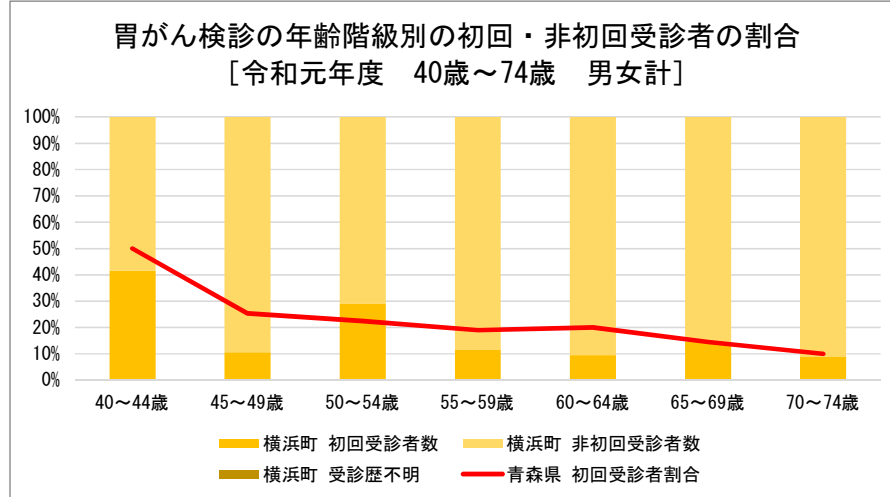
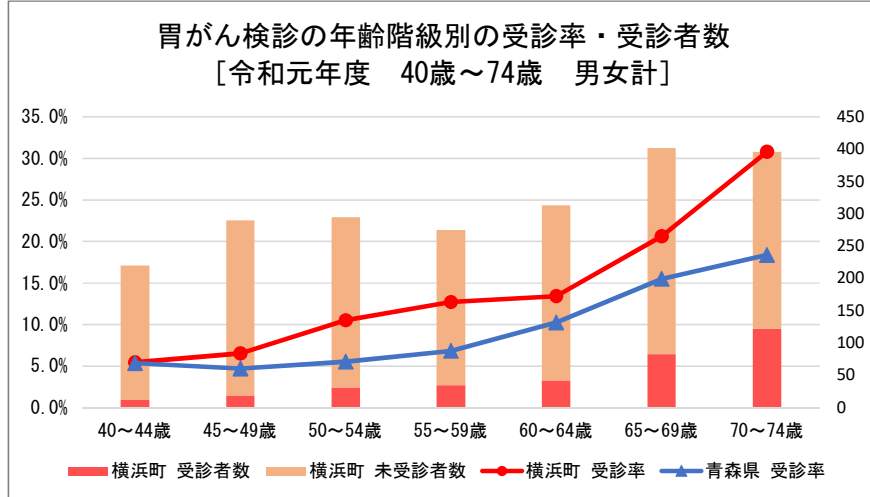
- ・受診率は、高い方が望ましい指標です。精度管理により検診の質を高めた上で、受診率を上げていく必要があります。
- ・性別・年齢階級別／検診機関別／検診歴別（初回・非初回別）の集計・分析は、課題を検討し、対策を講じるうえで必要となるため、台帳の電子システム化等により行えるようにすることが必要です。
- ・特定の年齢層の受診率が低い場合や、初回受診者が少ない場合、個別の受診勧奨・再勧奨の実施や、検診の提供体制（キャパシティ、利便性等）の改善について検討が必要です。

<胃がん検診（胃部X線）の受診率 [令和元年度 40歳～74歳 男女計] >

区分	全国	青森県	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	青森市	弘前市	八戸市	黒石市	五所川原市	十和田市	三沢市	むつ市	つがる市	平川市
受診率	3.4%	9.9%	6.6%	10.1%	9.3%	15.5%	11.8%	11.4%	6.2%	5.9%	9.3%	14.9%	10.4%	8.6%	8.4%	9.9%	21.2%	16.2%
順位	—	—	—	—	—	—	—	—	38位	39位	34位	16位	30位	35位	36位	31位	4位	11位
受診者数	2,052,053	63,404	10,317	14,031	14,856	10,043	10,022	4,135	8,926	4,955	10,547	2,496	2,877	2,686	1,513	2,815	3,406	2,493
対象者数	59,841,073	640,700	155,381	139,599	159,621	64,786	85,000	36,313	143,676	83,827	113,062	16,808	27,548	31,172	18,092	28,429	16,033	15,394
区分	平内町	今別町	蓬田村	外ヶ浜町	鱒ヶ沢町	深浦町	西目屋村	藤崎町	大鰐町	田舎館村	板柳町	鶴田町	中泊町	野辺地町	七戸町	六戸町	横浜町	東北町
受診率	9.5%	11.9%	14.7%	14.9%	16.9%	19.3%	13.3%	21.3%	17.5%	16.3%	14.0%	19.4%	15.5%	11.8%	18.3%	12.1%	15.7%	21.8%
順位	33位	26位	17位	15位	9位	6位	22位	3位	8位	10位	19位	5位	13位	27位	7位	24位	12位	1位
受診者数	553	159	210	469	839	811	83	1,561	859	624	960	1,236	874	793	1,464	648	344	1,888
対象者数	5,794	1,340	1,424	3,147	4,979	4,199	625	7,343	4,897	3,834	6,871	6,377	5,650	6,728	8,002	5,344	2,191	8,656
区分	六ヶ所村	おいらせ町	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	三戸町	五戸町	田子町	南部町	階上町	新郷村						
受診率	14.2%	5.8%	12.9%	21.7%	15.2%	13.4%	7.2%	9.8%	10.8%	11.9%	11.3%	14.0%	[受診率の計算方法について]					
順位	18位	40位	23位	2位	14位	21位	37位	32位	29位	25位	28位	20位	受診者数÷対象者数=受診率					
受診者数	686	713	353	674	153	140	362	866	300	1,088	811	169	※他のプロセス指標に合わせ、75歳未満の受診率を計算しているため他の統計の受診率と異なる。					
対象者数	4,815	12,304	2,726	3,105	1,007	1,046	5,046	8,874	2,787	9,157	7,180	1,211	※胃内内視鏡検査も実施している場合、検診受診率が見かけ上、低くなっている可能性がある。					

(出典：R元年度地域保健・健康増進事業報告) ※対象者数（分母）は対象年齢の全住民で、受診者数（分子）は市町村事業の受診者数であり、職域や人間ドックで受診している者は含まれていない。

2. 胃がん検診（胃部X線）の受診者の状況



<胃がん検診（胃部X線）の年齢階級別の受診者数・受診率 [令和元年度 男女計]>

区分	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	40～69歳	40～74歳
横浜市 対象者数	220	290	295	275	313	402	396	1,006		3,197	1,795	2,191
横浜市 受診者数	12	19	31	35	42	83	122	71	50	465	222	344
横浜市 初回受診者数	5	2	9	4	4	12	11	2	4	53	36	47
横浜市 非初回受診者数	7	17	22	31	38	71	111	69	46	412	186	297
横浜市 受診歴不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横浜市 受診率	5.5%	6.6%	10.5%	12.7%	13.4%	20.6%	30.8%	12.0%		14.5%	12.4%	15.7%
青森県 対象者数	80,973	88,159	85,011	87,707	94,032	107,348	97,470	216,471		857,171	543,230	640,700
青森県 受診者数	4,344	4,142	4,700	6,004	9,638	16,652	17,924	11,726	7,465	82,595	45,480	63,404
青森県 初回受診者数	2,173	1,050	1,055	1,140	1,929	2,412	1,793	1,046	632	13,230	9,759	11,552
青森県 非初回受診者数	2,136	3,057	3,619	4,822	7,644	14,140	16,062	10,640	6,804	68,924	35,418	51,480
青森県 受診歴不明	35	35	26	42	65	100	69	40	29	441	303	372
青森県 受診率	5.4%	4.7%	5.5%	6.8%	10.2%	15.5%	18.4%	8.9%		9.6%	8.4%	9.9%

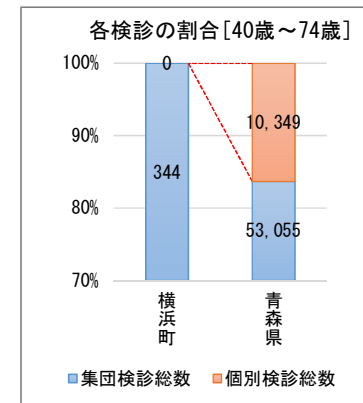
※受診者数はR元年度の受診者数である。

※初回受診者数と非初回受診者数の合計が受診者数と一致しない、または初回受診者数と非初回受診者数を計上していない市町村があるため、そのような場合は受診歴不明として計上している。

※対象者数から受診者数を除いた人数を未受診者数と定義しているが、実際は職場や人間ドック等でがん検診を受診している者が含まれている。

※初回受診者＝過去3年間に受診歴がない者

※非初回受診者＝過去3年間に受診歴がある者



個別事項「プロセス指標」（別紙4とは対象年度が異なる点に留意）

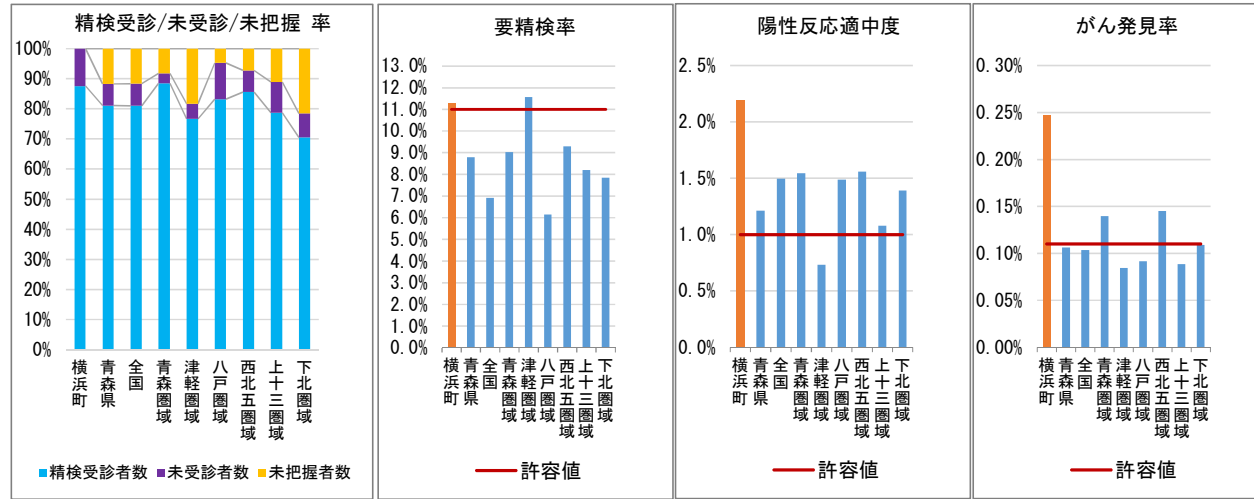
別紙4_参考2

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
[令和4年2月3日付け青が生第1693号通知]

平成28～30年度 胃がん検診（胃部X線）プロセス指標－受診率を除く－

自治体名	横浜市
------	-----

1. 胃がん検診（胃部X線）のプロセス指標（受診率を除く）



※許容値以下で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと

<胃がん検診（胃部X線）のプロセス指標 [平成28～30年度 40歳～74歳 男女計]>

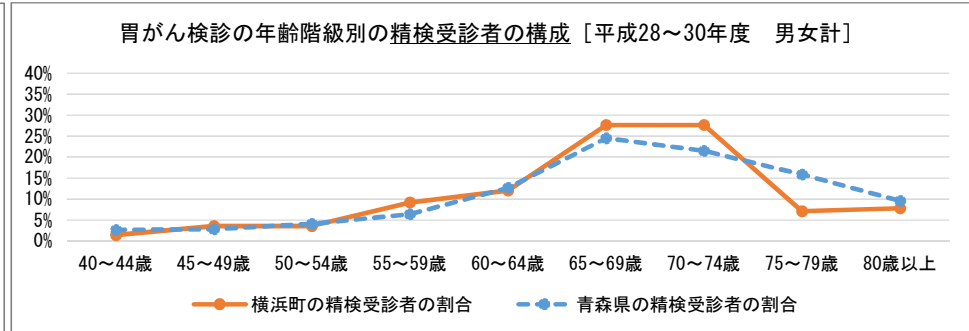
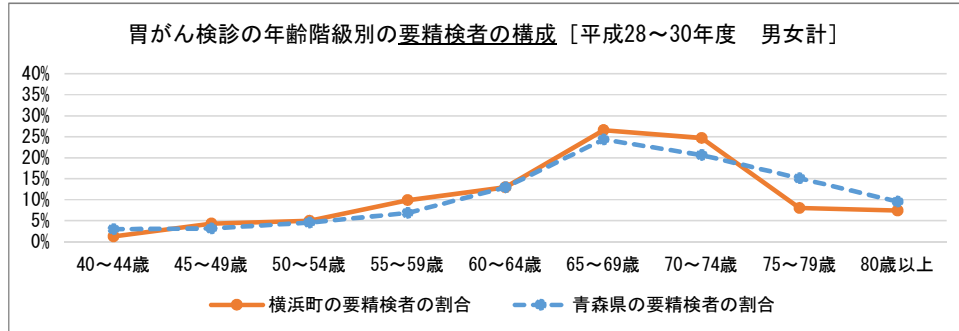
区分	横浜市	青森県	全国	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	許容値
受診者数	1,213	217,274	7,372,011	35,134	50,907	51,412	33,124	33,866	12,831	—
要精検者数	137	19,084	510,060	3,171	5,884	3,164	3,081	2,777	1,007	—
未把握者数	0	2,234	59,407	259	1,079	150	223	306	217	—
未受診者数	17	1,369	37,508	106	295	380	222	286	80	—
精検受診者数	120	15,481	413,145	2,806	4,510	2,634	2,636	2,185	710	—
がんであった者	3	231	7,632	49	43	47	48	30	14	—
要精検率	11.3%	8.8%	6.9%	9.0%	11.6%	6.2%	9.3%	8.2%	7.8%	11.0% 以下
精検受診率	87.6%	81.1%	81.0%	88.5%	76.6%	83.2%	85.6%	78.7%	70.5%	70% 以上
未受診率	12.4%	7.2%	7.4%	3.3%	5.0%	12.0%	7.2%	10.3%	7.9%	20% 以下
未把握率	0.0%	11.7%	11.6%	8.2%	18.3%	4.7%	7.2%	11.0%	21.5%	10% 以下
陽性反応適中度	2.2%	1.2%	1.5%	1.5%	0.7%	1.5%	1.6%	1.1%	1.4%	1.0% 以上
がん発見率	0.25%	0.11%	0.10%	0.14%	0.08%	0.09%	0.14%	0.09%	0.11%	0.11% 以上

指標の意義・一般的な対策	
精検受診率 未受診率 未把握率	<ul style="list-style-type: none"> 要精検者の精検受診状況を測る指標です。 精検受診率が低ければ、死亡率減少につながらないため、検診受診率よりも精検受診率向上が優先されます。また、100%に近くなければ、がん発見率等を適切に評価できません。 精検結果回収の仕組みを整備し、精検未受診・未把握を適切に分類して、精検受診勧奨に取り組むことで、精検受診率100%に向けて取り組む必要があります。
要精検率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、精密検査の対象者が適切に絞られているかを測る指標です。対象集団に応じて適切な範囲があり、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 要精検率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
陽性反応適中度	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 陽性反応適中度が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
がん発見率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、適正な頻度でがんを発見できたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 がん発見率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。

[計算方法] ●要精検率=精検受診者数÷受診者数、●精検受診率=精検受診者数÷要精検者数、●未受診率=未受診者数÷要精検者数、●未把握率=未把握者数÷要精検者数、●陽性反応適中度=がんであった者÷要精検者数、●がん発見率=がんであった者÷受診者数

(出典：H29～R元年度地域保健・健康増進事業報告)

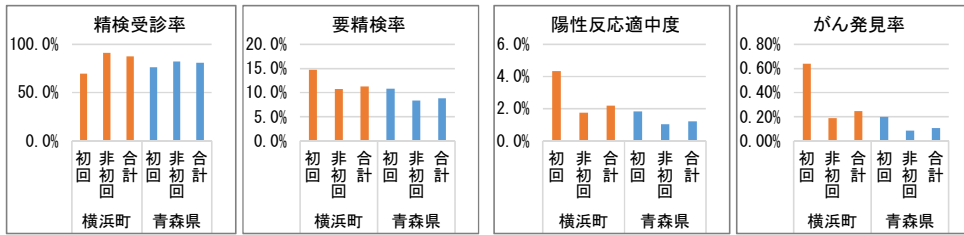
2. 胃がん検診（胃部X線）の年齢階級別・受診歴別・検診方式別のプロセス指標



<胃がん検診（胃部X線）の年齢階級別の要精検者数・精検受診者数・精検受診率 [平成28～30年度 男女計]>

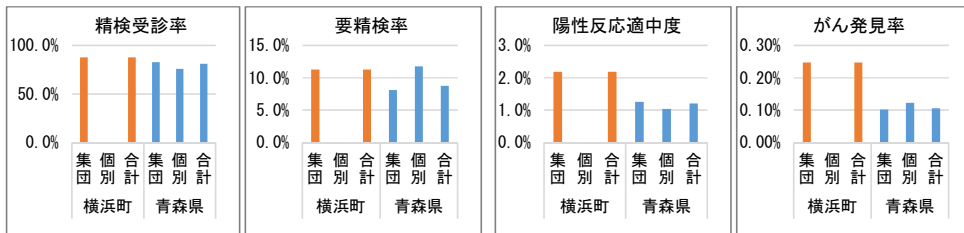
区分	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	40～74歳	
横浜市	要精検者数	2	7	8	16	21	43	40	13	12	162	137
横浜市	精検受診者数	2	5	5	13	17	39	39	10	11	141	120
横浜市	精検受診率	100.0%	71.4%	62.5%	81.3%	81.0%	90.7%	97.5%	76.9%	91.7%	87.0%	87.6%
青森県	要精検者数	749	795	1,151	1,728	3,276	6,164	5,221	3,831	2,411	25,326	19,084
青森県	精検受診者数	551	580	851	1,331	2,626	5,086	4,456	3,283	1,979	20,743	15,481
青森県	精検受診率	73.6%	73.0%	73.9%	77.0%	80.2%	82.5%	85.3%	85.7%	82.1%	81.9%	81.1%

<胃がん検診（胃部X線）の受診歴別のプロセス指標 [平成28～30年度 40歳～74歳 男女計]>



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率	
横浜市	初回	156	23	16	1	14.7%	69.6%	4.3%	0.64%
横浜市	非初回	1,057	114	104	2	10.8%	91.2%	1.8%	0.19%
横浜市	合計	1,213	137	120	3	11.3%	87.6%	2.2%	0.25%
青森県	初回	38,379	4,163	3,170	76	10.8%	76.1%	1.8%	0.20%
青森県	非初回	169,183	14,097	11,610	145	8.3%	82.4%	1.0%	0.09%
青森県	合計	217,274	19,084	15,481	231	8.8%	81.1%	1.2%	0.11%

<胃がん検診（胃部X線）の検診方式別のプロセス指標 [平成27～29年度 40歳～74歳 男女計]>



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率	
横浜市	集団検診	1,213	137	120	3	11.3%	87.6%	2.2%	0.25%
横浜市	個別検診	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%
横浜市	合計	1,213	137	120	3	11.3%	87.6%	2.2%	0.25%
青森県	集団検診	178,193	14,481	11,988	183	8.1%	82.8%	1.3%	0.10%
青森県	個別検診	39,081	4,603	3,493	48	11.8%	75.9%	1.0%	0.12%
青森県	合計	217,274	19,084	15,481	231	8.8%	81.1%	1.2%	0.11%

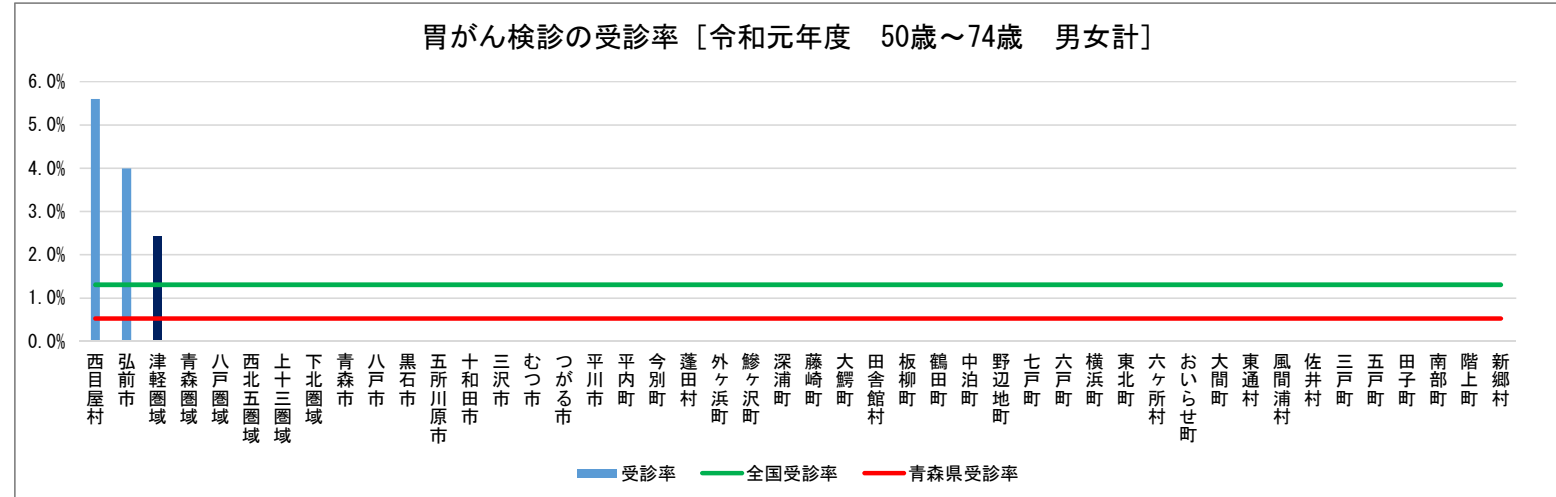
(出典：H29～R元年度地域保健・健康増進事業報告)

個別事項「プロセス指標」

令和元年度 胃がん検診（胃部内視鏡）プロセス指標－受診率－

自治体名 **横浜町**

1. 胃がん検診（胃部内視鏡）の受診率



指標の意義・一般的な対策

- ・受診率は、高い方が望ましい指標です。精度管理により検診の質を高めた上で、受診率を上げていく必要があります。
- ・性別・年齢階級別／検診機関別／検診歴別（初回・非初回別）の集計・分析は、課題を検討し、対策を講じるうえで必要となるため、台帳の電子システム化等により行えるようにすることが必要です。
- ・特定の年齢層の受診率が低い場合や、初回受診者が少ない場合、個別の受診勧奨・再勧奨の実施や、検診の提供体制（キャパシティ、利便性等）の改善について検討が必要です。

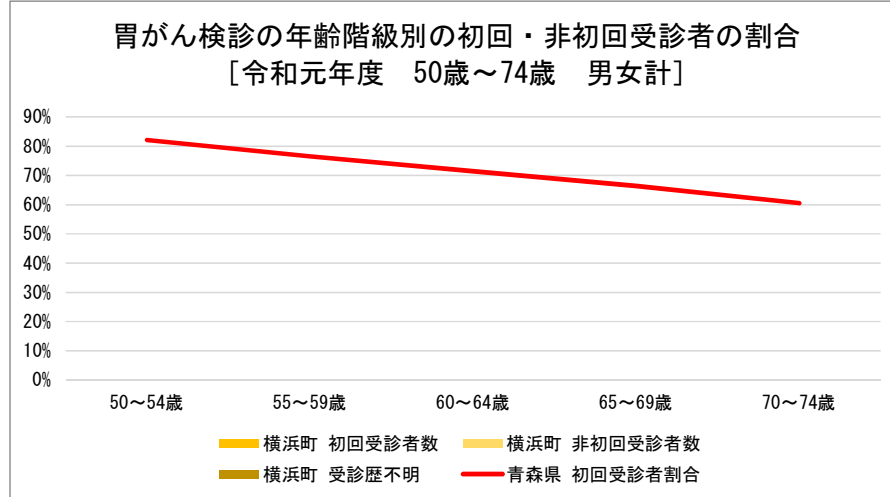
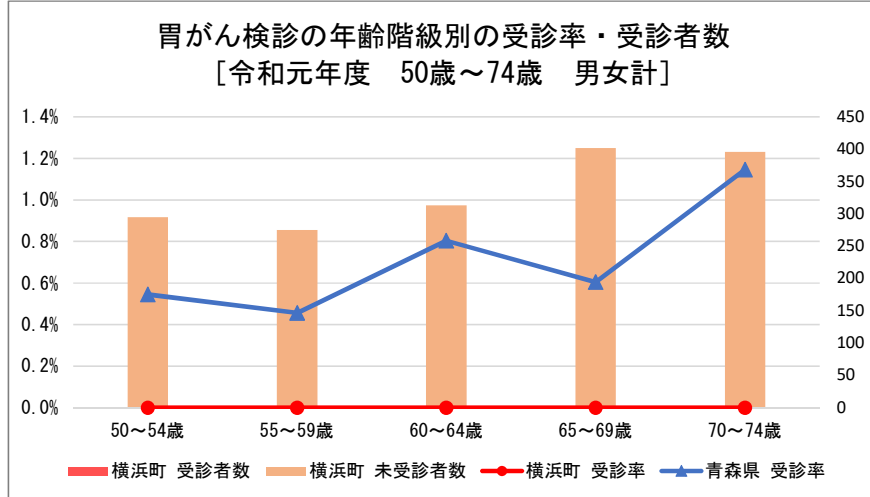
<胃がん検診（胃部内視鏡）の受診率 [令和元年度 50歳～74歳 男女計] >

区分	全国	青森県	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	青森市	弘前市	八戸市	黒石市	五所川原市	十和田市	三沢市	むつ市	つがる市	平川市
受診率	1.3%	0.5%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
順位	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2位	—	—	—	—	—	—	—	—
受診者数	782,010	3,386	0	3,386	0	0	0	0	0	3,351	0	0	0	0	0	0	0	0
対象者数	59,841,073	640,700	155,381	139,599	159,621	64,786	85,000	36,313	143,676	83,827	113,062	16,808	27,548	31,172	18,092	28,429	16,033	15,394
区分	平内町	今別町	蓬田村	外ヶ浜町	鱒ヶ沢町	深浦町	西目屋村	藤崎町	大鰐町	田舎館村	板柳町	鶴田町	中泊町	野辺地町	七戸町	六戸町	横浜町	東北町
受診率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
順位	—	—	—	—	—	—	1位	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
受診者数	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
対象者数	5,794	1,340	1,424	3,147	4,979	4,199	625	7,343	4,897	3,834	6,871	6,377	5,650	6,728	8,002	5,344	2,191	8,656
区分	六ヶ所村	おいらせ町	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	三戸町	五戸町	田子町	南部町	階上町	新郷村						
受診率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%						
順位	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						
受診者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
対象者数	4,815	12,304	2,726	3,105	1,007	1,046	5,046	8,874	2,787	9,157	7,180	1,211						

[受診率の計算方法について]
 受診者数÷対象者数=受診率
 ※他のプロセス指標に合わせ、75歳未満の受診率を計算しているため他の統計の受診率と異なる。
 ※2年連続受診者の算定が困難であるため、その者がいた場合、検診受診率に含まれている。

(出典：R元年度地域保健・健康増進事業報告) ※対象者数（分母）は対象年齢の全住民で、受診者数（分子）は市町村事業の受診者数であり、職域や人間ドックで受診している者は含まれていない。

2. 胃がん検診（胃部内視鏡）の受診者の状況

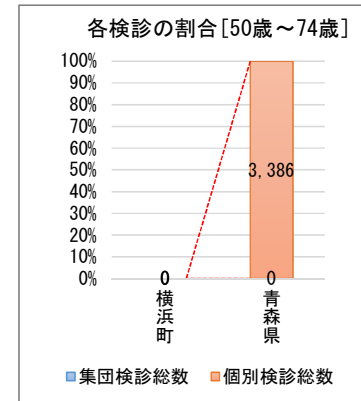


<胃がん検診（胃部内視鏡）の年齢階級別の受診者数・受診率 [令和元年度 男女計]>

区分		40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	50～69歳	50～74歳
横浜町	対象者数			295	275	313	402	396	1,006		2,687	1,285	1,681
横浜町	受診者数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横浜町	初回受診者数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横浜町	非初回受診者数			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横浜町	受診歴不明			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横浜町	受診率			0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
青森県	対象者数			85,011	87,707	94,032	107,348	97,470	216,471		688,039	374,098	471,568
青森県	受診者数			464	400	756	649	1,117	567	564	4,517	2,269	3,386
青森県	初回受診者数			381	306	540	431	676	360	437	3,131	1,658	2,334
青森県	非初回受診者数			76	85	210	210	436	201	116	1,334	581	1,017
青森県	受診歴不明			7	9	6	8	5	6	11	52	30	35
青森県	受診率			0.5%	0.5%	0.8%	0.6%	1.1%	0.5%		0.7%	0.6%	0.7%

※初回受診者＝過去3年間に受診歴がない者

※非初回受診者＝過去3年間に受診歴がある者



※受診者数はR元年度の受診者数である。

※初回受診者数と非初回受診者数の合計が受診者数と一致しない、または初回受診者数と非初回受診者数を計上していない市町村があるため、そのような場合は受診歴不明として計上している。

※対象者数から受診者数を除いた人数を未受診者数と定義しているが、実際は職場や人間ドック等でがん検診を受診している者が含まれている。

個別事項「プロセス指標」（別紙5とは対象年度が異なる点に留意）

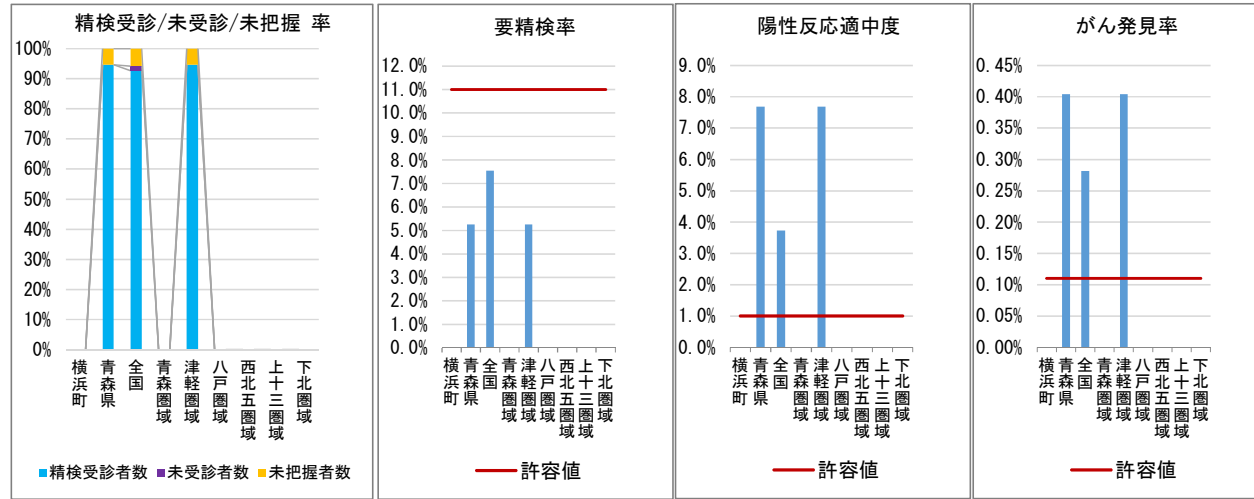
別紙5_参考2

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
[令和4年2月3日付け青が生第1693号通知]

平成28～30年度 胃がん検診（胃部内視鏡）プロセス指標－受診率を除く－

自治体名	横浜市
------	-----

1. 胃がん検診（胃部X線）のプロセス指標（受診率を除く）



※許容値以下で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと

<胃がん検診（胃部内視鏡）のプロセス指標 [平成28～30年度 50歳～74歳 男女計]>

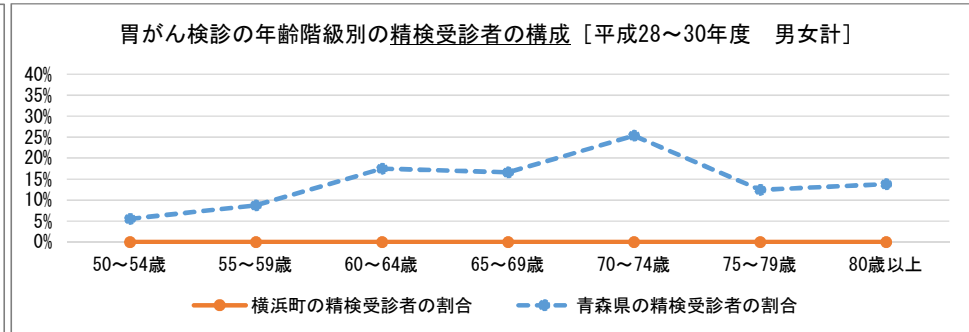
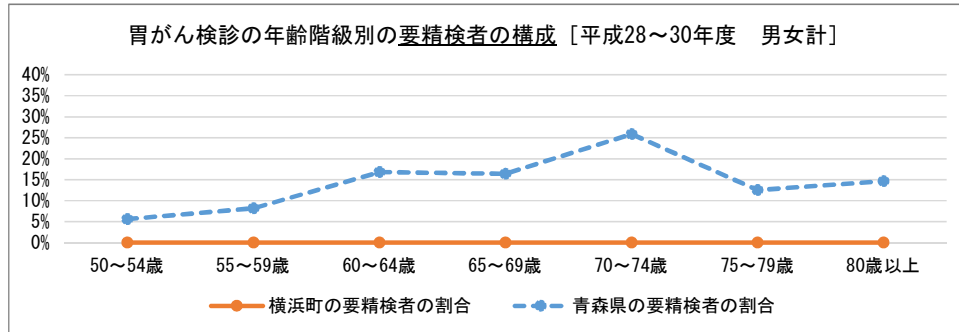
区分	横浜市	青森県	全国	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	許容値
受診者数	0	3,216	726,060	0	3,216	0	0	0	0	—
要精検者数	0	169	54,815	0	169	0	0	0	0	—
未把握者数	0	9	3,096	0	9	0	0	0	0	—
未受診者数	0	0	781	0	0	0	0	0	0	—
精検受診者数	0	160	49,201	0	160	0	0	0	0	—
がんであった者	0	13	2,045	0	13	0	0	0	0	—
要精検率	0.0%	5.3%	7.5%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.0% 以下
精検受診率	0.0%	94.7%	89.8%	0.0%	94.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	70% 以上
未受診率	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20% 以下
未把握率	0.0%	5.3%	5.6%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10% 以下
陽性反応適中度	0.0%	7.7%	3.7%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0% 以上
がん発見率	0.00%	0.40%	0.28%	0.00%	0.40%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.11% 以上

[計算方法] ●要精検率=精検受診者数÷受診者数、●精検受診率=精検受診者数÷要精検者数、●未受診率=未受診者数÷要精検者数、●未把握率=未把握者数÷要精検者数、●陽性反応適中度=がんであった者÷要精検者数、●がん発見率=がんであった者÷受診者数

(出典：H29～R元年度地域保健・健康増進事業報告)

指標の意義・一般的な対策	
精検受診率 未受診率 未把握率	<ul style="list-style-type: none"> 要精検者の精検受診状況を測る指標です。 精検受診率が低ければ、死亡率減少につながらないため、検診受診率よりも精検受診率向上が優先されます。また、100%に近くなければ、がん発見率等を適切に評価できません。 精検結果回収の仕組みを整備し、精検未受診・未把握を適切に分類して、精検受診勧奨に取り組むことで、精検受診率100%に向けて取り組む必要があります。
要精検率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、精密検査の対象者が適切に絞られているかを測る指標です。対象集団に応じて適切な範囲があり、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 要精検率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
陽性反応適中度	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 陽性反応適中度が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
がん発見率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、適正な頻度でがんを発見できたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 がん発見率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。

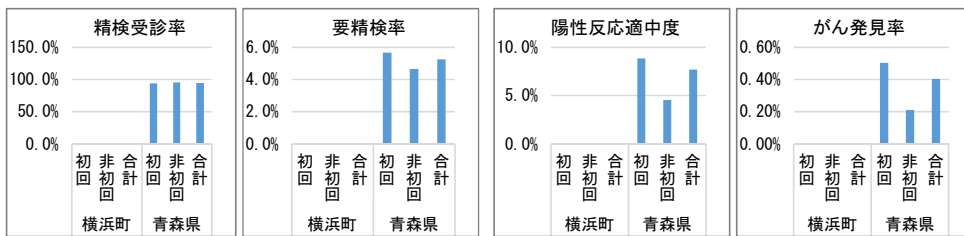
2. 胃がん検診（胃部内視鏡）の年齢階級別・受診歴別・検診方式別のプロセス指標



<胃がん検診（胃部内視鏡）の年齢階級別の要精検者数・精検受診者数・精検受診率 [平成28～30年度 男女計]>

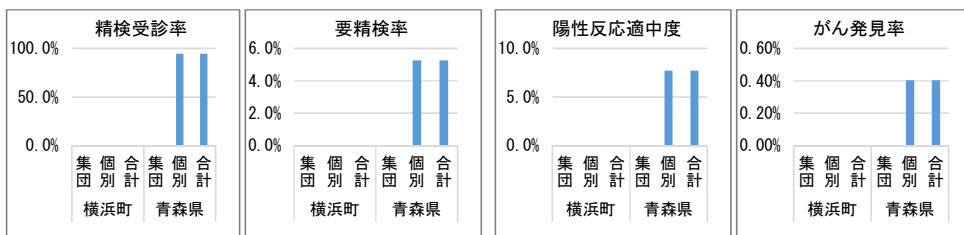
区分	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	50～74歳
横浜市	要精検者数		0	0	0	0	0	0	0	0	0
横浜市	精検受診者数		0	0	0	0	0	0	0	0	0
横浜市	精検受診率		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
青森県	要精検者数		13	19	39	38	60	29	34	232	169
青森県	精検受診者数		12	19	38	36	55	27	30	217	160
青森県	精検受診率		92.3%	100.0%	97.4%	94.7%	91.7%	93.1%	88.2%	93.5%	94.7%

<胃がん検診（胃部内視鏡）の受診歴別のプロセス指標 [平成28～30年度 50歳～74歳 男女計]>



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
横浜市	初回	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%
横浜市	非初回	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%
横浜市	合計	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%
青森県	初回	2,186	124	117	5.7%	94.4%	8.9%	0.50%
青森県	非初回	945	44	42	4.7%	95.5%	4.5%	0.21%
青森県	合計	3,216	169	160	5.3%	94.7%	7.7%	0.40%

<胃がん検診（胃部内視鏡）の検診方式別のプロセス指標 [平成28～30年度 50歳～74歳 男女計]>



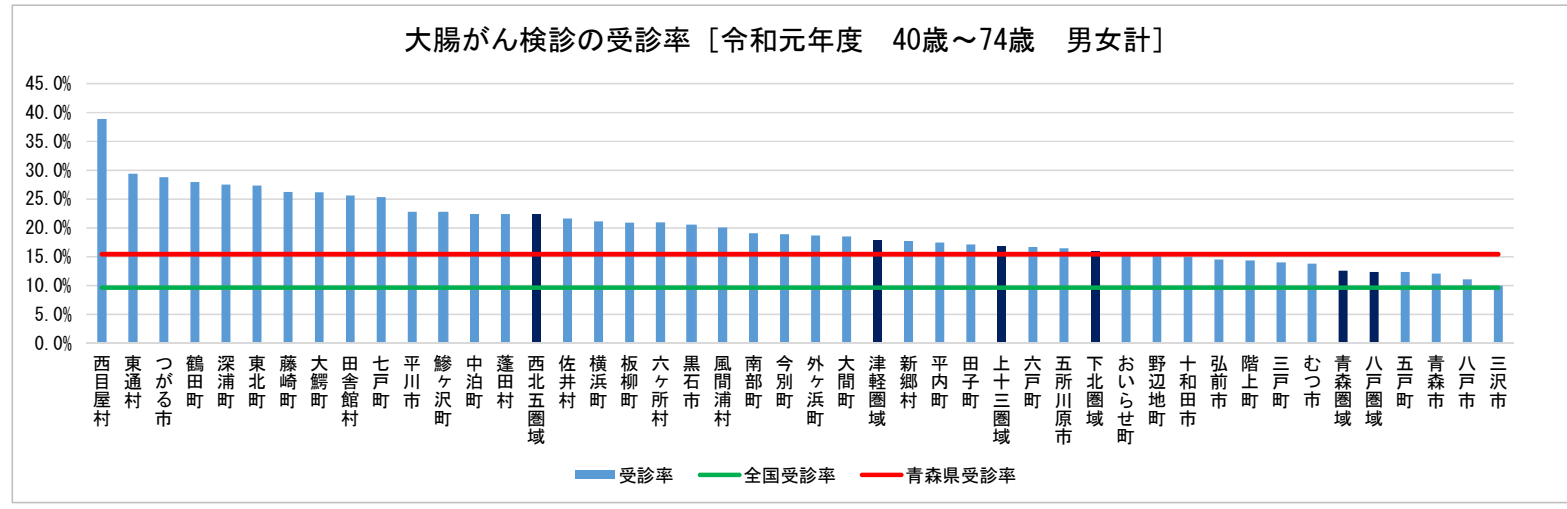
区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
横浜市	集団検診	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%
横浜市	個別検診	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%
横浜市	合計	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%
青森県	集団検診	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%
青森県	個別検診	3,216	169	160	5.3%	94.7%	7.7%	0.40%
青森県	合計	3,216	169	160	5.3%	94.7%	7.7%	0.40%

個別事項「プロセス指標」

令和元年度 大腸がん検診プロセス指標 - 受診率 -

自治体名 横浜町

1. 大腸がん検診の受診率



指標の意義・一般的な対策

- ・受診率は、高い方が望ましい指標です。精度管理により検診の質を高めた上で、受診率を上げていく必要があります。
- ・性別・年齢階級別／検診機関別／検診歴別（初回・非初回別）の集計・分析は、課題を検討し、対策を講じるうえで必要となるため、台帳の電子システム化等により行えるようにすることが必要です。
- ・特定の年齢層の受診率が低い場合や、初回受診者が少ない場合、個別の受診勧奨・再勧奨の実施や、検診の提供体制（キャパシティ、利便性等）の改善について検討が必要です。

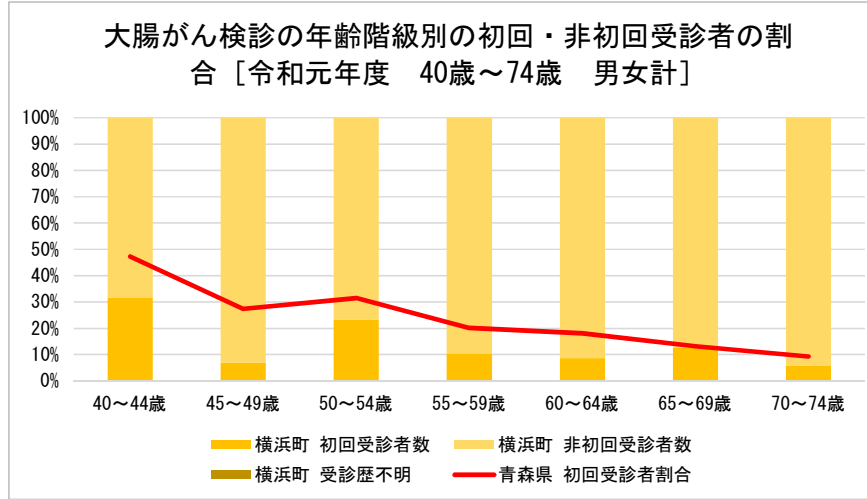
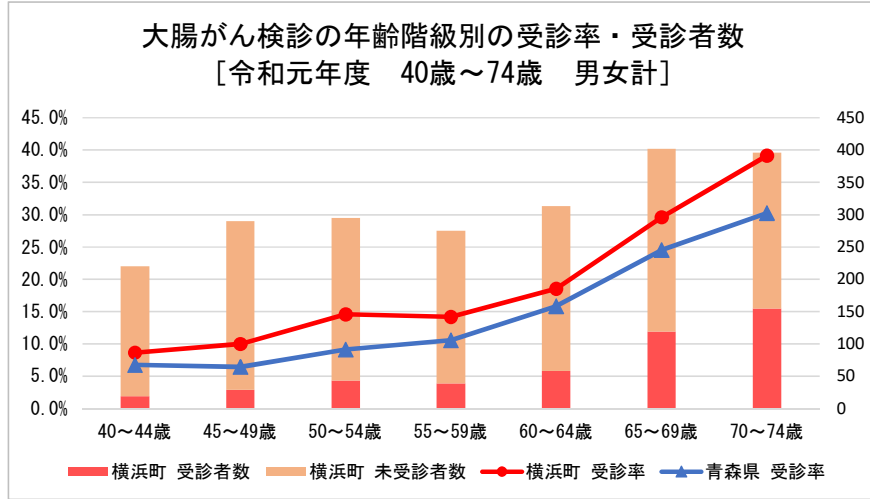
<大腸がん検診の受診率 [令和元年度 40歳～74歳 男女計] >

区分	全国	青森県	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	青森市	弘前市	八戸市	黒石市	五所川原市	十和田市	三沢市	むつ市	つがる市	平川市
受診率	9.6%	15.4%	12.6%	17.9%	12.4%	22.3%	16.8%	15.9%	12.1%	14.5%	11.1%	20.4%	16.5%	15.1%	10.0%	13.8%	28.8%	22.8%
順位	—	—	—	—	—	—	—	—	38位	33位	39位	19位	29位	32位	40位	36位	3位	11位
受診者数	5,769,197	98,801	19,544	24,981	19,740	14,457	14,306	5,773	17,375	12,173	12,529	3,432	4,534	4,694	1,803	3,928	4,615	3,507
対象者数	59,874,534	640,600	155,381	139,599	159,621	64,686	85,000	36,313	143,676	83,827	113,062	16,808	27,548	31,172	18,092	28,429	16,033	15,394
区分	平内町	今別町	蓬田村	外ヶ浜町	鱒ヶ沢町	深浦町	西目屋村	藤崎町	大鰐町	田舎館村	板柳町	鶴田町	中泊町	野辺地町	七戸町	六戸町	横浜町	東北町
受診率	17.4%	18.9%	22.4%	18.7%	22.6%	27.5%	38.9%	26.2%	26.2%	25.6%	20.9%	27.9%	22.4%	15.7%	25.3%	16.7%	21.1%	27.3%
順位	26位	22位	14位	23位	12位	5位	1位	7位	8位	9位	17位	4位	13位	31位	10位	28位	16位	6位
受診者数	1,010	253	319	587	1,127	1,155	243	1,926	1,282	981	1,437	1,782	1,244	1,054	2,028	892	462	2,366
対象者数	5,794	1,340	1,424	3,147	4,979	4,199	625	7,343	4,897	3,834	6,871	6,377	5,550	6,728	8,002	5,344	2,191	8,656
区分	六ヶ所村	おいらせ町	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	三戸町	五戸町	田子町	南部町	階上町	新郷村						
受診率	20.9%	15.8%	18.5%	29.4%	20.1%	21.6%	14.0%	12.4%	17.2%	19.0%	14.3%	17.7%						
順位	18位	30位	24位	2位	20位	15位	35位	37位	27位	21位	34位	25位						
受診者数	1,007	1,941	505	912	202	226	707	1,097	478	1,744	1,030	214						
対象者数	4,815	12,304	2,726	3,105	1,007	1,046	5,046	8,874	2,787	9,157	7,180	1,211						

[受診率の計算方法について]
受診者数÷対象者数=受診率
※他のプロセス指標に合わせ、75歳未満の受診率を計算しているため他の統計の受診率と異なる。

(出典：R元年度地域保健・健康増進事業報告) ※対象者数(分母)は対象年齢の全住民で、受診者数(分子)は市町村事業の受診者数であり、職域や人間ドックで受診している者は含まれていない。

2. 大腸がん検診の受診者の状況



<大腸がん検診の年齢階級別の受診者数・受診率 [令和元年度 男女計] >

区分		40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	40～69歳	40～74歳
横浜市	対象者数	220	290	295	275	313	402	396	1,006		3,197	1,795	2,191
横浜市	受診者数	19	29	43	39	58	119	155	100	83	645	307	462
横浜市	初回受診者数	6	2	10	4	5	15	9	2	2	55	42	51
横浜市	非初回受診者数	13	27	33	35	53	104	146	98	81	590	265	411
横浜市	受診歴不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横浜市	受診率	8.6%	10.0%	14.6%	14.2%	18.5%	29.6%	39.1%	18.2%		20.2%	17.1%	21.1%
青森県	対象者数	80,973	88,159	85,011	87,707	94,032	107,348	97,370	216,471		857,071	543,230	640,600
青森県	受診者数	5,459	5,670	7,748	9,272	14,876	26,326	29,450	20,936	17,041	136,778	69,351	98,801
青森県	初回受診者数	2,580	1,552	2,437	1,864	2,695	3,465	2,735	1,747	1,538	20,613	14,593	17,328
青森県	非初回受診者数	2,730	3,995	5,186	7,255	11,942	22,485	26,431	19,004	15,378	114,406	53,593	80,024
青森県	受診歴不明	149	123	125	153	239	376	284	185	125	1,759	1,165	1,449
青森県	受診率	6.7%	6.4%	9.1%	10.6%	15.8%	24.5%	30.2%	17.5%		16.0%	12.8%	15.4%

※受診者数はR元年度の受診者数である。

※初回受診者数と非初回受診者数の合計が受診者数と一致しない、または初回受診者数と非初回受診者数を計上していない市町村があるため、そのような場合は受診歴不明として計上している。

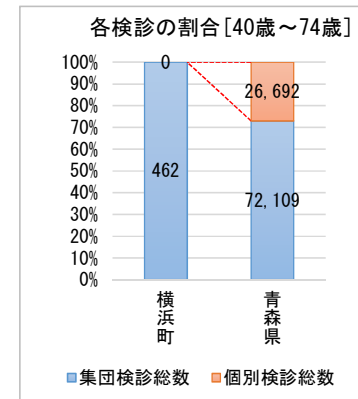
※対象者数から受診者数を除いた人数を未受診者数と定義しているが、実際は職場や人間ドック等でがん検診を受診している者が含まれている。

※50歳代は大腸がん検診モデル事業の影響により県平均の受診率や初回受診者割合が通常よりも高い。

(出典：R元年度地域保健・健康増進事業報告)

※初回受診者＝過去3年間に受診歴がない者

※非初回受診者＝過去3年間に受診歴がある者



個別事項「プロセス指標」 (別紙6とは対象年度が異なる点に留意)

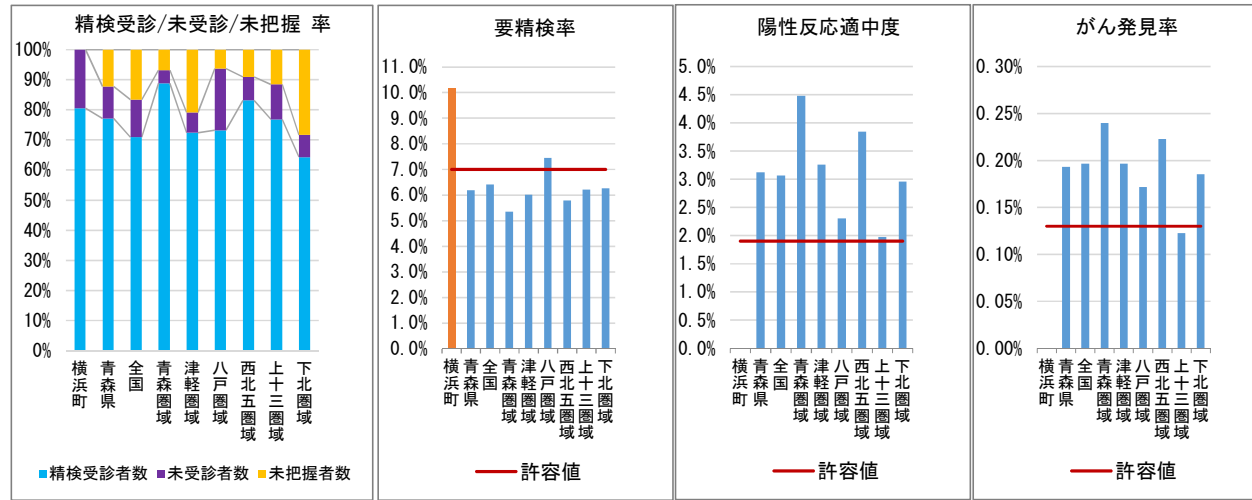
別紙6_参考2

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
[令和4年2月3日付け青が生第1693号通知]

平成28～30年度 大腸がん検診プロセス指標 - 受診率を除く -

自治体名	横浜市
------	-----

1. 大腸がん検診のプロセス指標 (受診率を除く)



※許容値以下で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと

<大腸がん検診のプロセス指標 [平成28～30年度 40歳～74歳 男女計]>

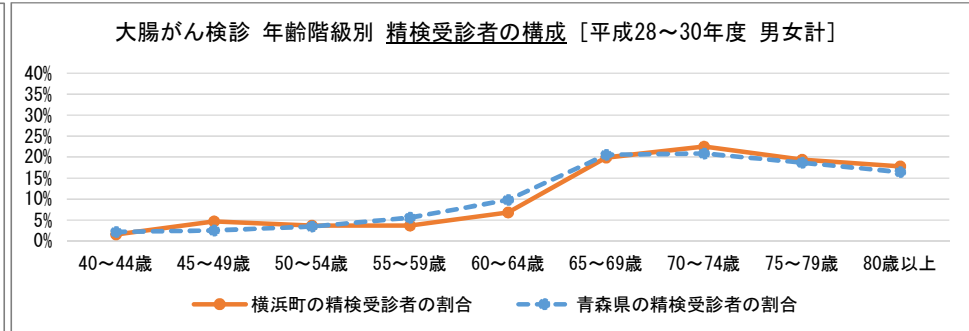
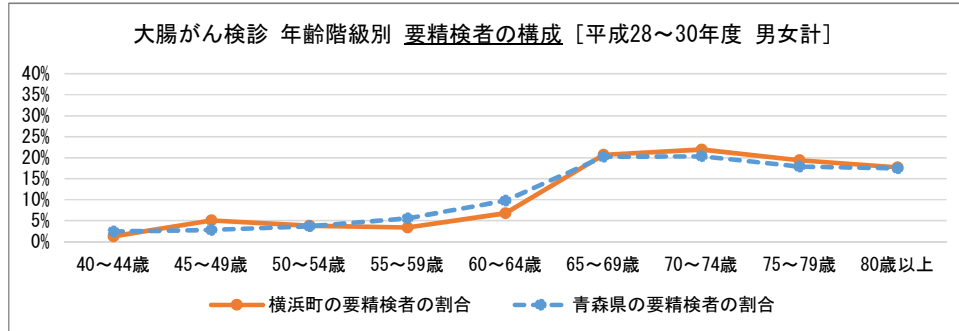
区分	横浜市	青森県	全国	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	許容値
受診者数	1,468	311,800	18,120,809	63,803	78,870	63,459	44,906	44,039	16,723	—
要精検者数	149	19,285	1,163,062	3,415	4,751	4,734	2,601	2,736	1,048	—
未把握者数	0	2,369	192,978	231	991	298	237	315	297	—
未受診者数	29	2,036	145,515	149	320	969	202	319	77	—
精検受診者数	120	14,880	824,569	3,035	3,440	3,467	2,162	2,102	674	—
がんであった者	0	602	35,625	153	155	109	100	54	31	—
要精検率	10.1%	6.2%	6.4%	5.4%	6.0%	7.5%	5.8%	6.2%	6.3%	7.0% 以下
精検受診率	80.5%	77.2%	70.9%	88.9%	72.4%	73.2%	83.1%	76.8%	64.3%	70% 以上
未受診率	19.5%	10.6%	12.5%	4.4%	6.7%	20.5%	7.8%	11.7%	7.3%	20% 以下
未把握率	0.0%	12.3%	16.6%	6.8%	20.9%	6.3%	9.1%	11.5%	28.3%	10% 以下
陽性反応適中度	0.0%	3.1%	3.1%	4.5%	3.3%	2.3%	3.8%	2.0%	3.0%	1.9% 以上
がん発見率	0.00%	0.19%	0.20%	0.24%	0.20%	0.17%	0.22%	0.12%	0.19%	0.13% 以上

指標の意義・一般的な対策	
精検受診率 未受診率 未把握率	<ul style="list-style-type: none"> 要精検者の精検受診状況を測る指標です。 精検受診率が低ければ、死亡率減少につながらないため、検診受診率よりも精検受診率向上が優先されます。また、100%に近くなければ、がん発見率等を適切に評価できません。 精検結果回収の仕組みを整備し、精検未受診・未把握を適切に分類して、精検受診勧奨に取り組むことで、精検受診率100%に向けて取り組む必要があります。
要精検率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、精密検査の対象者が適切に絞られているかを測る指標です。対象集団に応じて適切な範囲があり、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 要精検率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
陽性反応適中度	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 陽性反応適中度が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
がん発見率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、適正な頻度でがんを発見できたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 がん発見率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。

[計算方法] ●要精検率=精検受診者数÷受診者数、●精検受診率=精検受診者数÷要精検者数、●未受診率=未受診者数÷要精検者数、●未把握率=未把握者数÷要精検者数、●陽性反応適中度=がんであった者÷要精検者数、●がん発見率=がんであった者÷受診者数

(出典：H29～R元年度地域保健・健康増進事業報告)

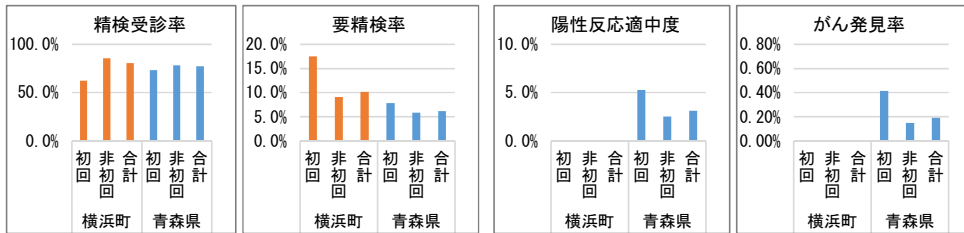
2. 大腸がん検診の年齢階級別・受診歴別・検診方式別のプロセス指標



<大腸がん検診の年齢階級別の要精検者数・精検受診者数・精検受診率 [平成28～30年度 男女計] >

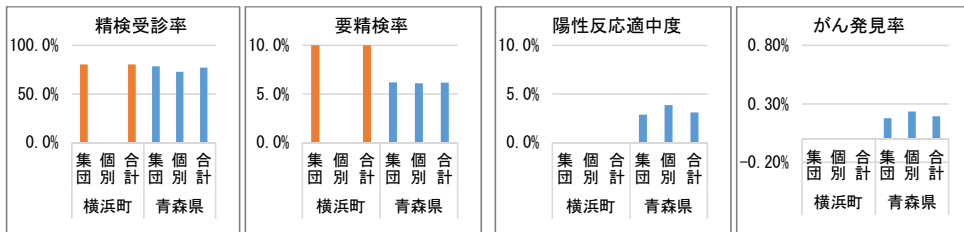
区分	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	40～74歳
横浜市 要精検者数	3	12	9	8	16	49	52	46	42	237	149
横浜市 精検受診者数	3	9	7	7	13	38	43	37	34	191	120
横浜市 精検受診率	100.0%	75.0%	77.8%	87.5%	81.3%	77.6%	82.7%	80.4%	81.0%	80.6%	80.5%
青森県 要精検者数	716	831	1,086	1,656	2,903	6,034	6,059	5,338	5,200	29,823	19,285
青森県 精検受診者数	499	575	796	1,273	2,247	4,706	4,784	4,274	3,770	22,924	14,880
青森県 精検受診率	69.7%	69.2%	73.3%	76.9%	77.4%	78.0%	79.0%	80.1%	72.5%	76.9%	77.2%

<大腸がん検診の受診歴別のプロセス指標 [平成28～30年度 40歳～74歳 男女計] >



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
横浜市 初回	183	32	20	0	17.5%	62.5%	0.0%	0.00%
横浜市 非初回	1,285	117	100	0	9.1%	85.5%	0.0%	0.00%
横浜市 合計	1,468	149	120	0	10.1%	80.5%	0.0%	0.00%
青森県 初回	56,917	4,457	3,268	236	7.8%	73.3%	5.3%	0.41%
青森県 非初回	243,422	14,182	11,112	359	5.8%	78.4%	2.5%	0.15%
青森県 合計	311,800	19,285	14,880	602	6.2%	77.2%	3.1%	0.19%

<大腸がん検診の検診方式別のプロセス指標 [平成27～29年度 40歳～74歳 男女計] >



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
横浜市 集団検診	1,468	149	120	0	10.1%	80.5%	0.0%	0.00%
横浜市 個別検診	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%
横浜市 合計	1,468	149	120	0	10.1%	80.5%	0.0%	0.00%
青森県 集団検診	228,087	14,169	11,146	405	6.2%	78.7%	2.9%	0.18%
青森県 個別検診	83,713	5,116	3,734	197	6.1%	73.0%	3.9%	0.24%
青森県 合計	311,800	19,285	14,880	602	6.2%	77.2%	3.1%	0.19%

(出典：H29～R元年度地域保健・健康増進事業報告)

個別事項「プロセス指標」

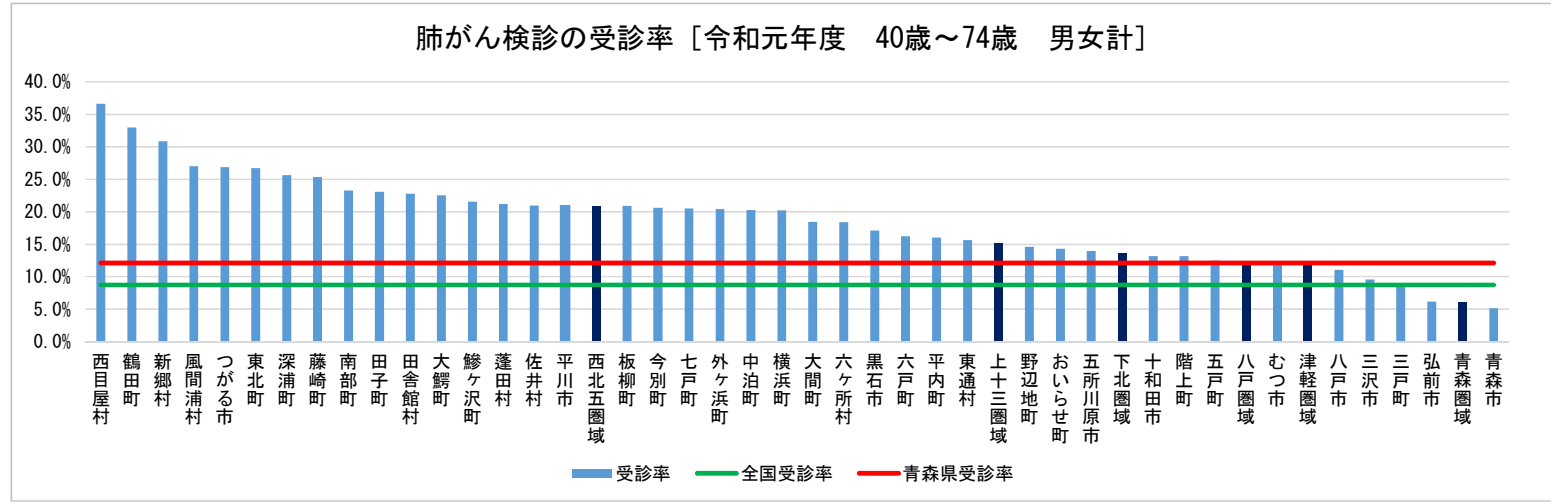
別紙7_参考1

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
[令和4年2月3日付け青が生第1693号通知]

令和元年度 肺がん検診プロセス指標 - 受診率 -

自治体名	横浜町
------	-----

1. 肺がん検診の受診率



指標の意義・一般的な対策

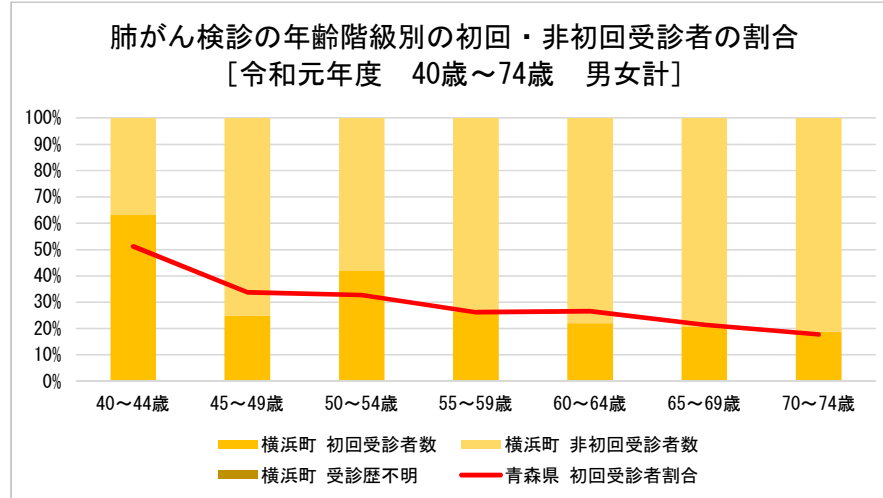
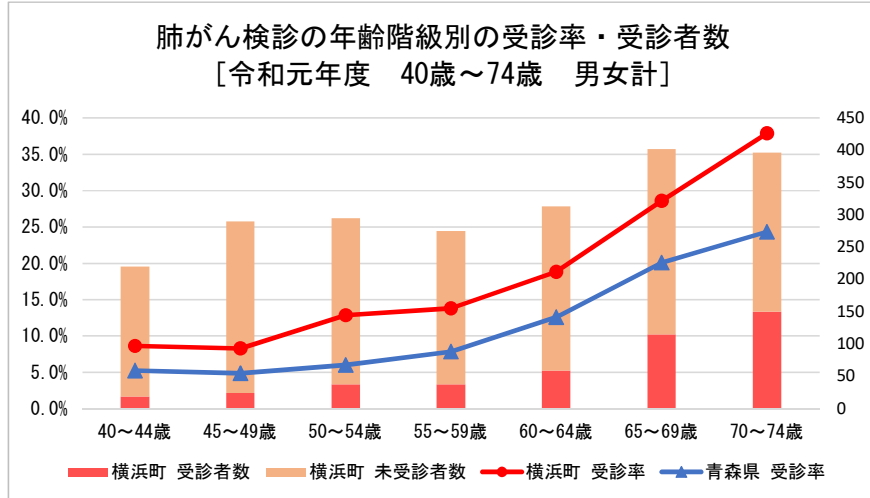
- ・受診率は、高い方が望ましい指標です。精度管理により検診の質を高めた上で、受診率を上げていく必要があります。
- ・性別・年齢階級別/検診機関別/検診歴別(初回・非初回別)の集計・分析は、課題を検討し、対策を講じるうえで必要となるため、台帳の電子システム化等により行えるようにすることが必要です。
- ・特定の年齢層の受診率が低い場合や、初回受診者が少ない場合、個別の受診勧奨・再勧奨の実施や、検診の提供体制(キャパシティ、利便性等)の改善について検討が必要です。

<肺がん検診の受診率 [令和元年度 40歳～74歳 男女計] >

区分	全国	青森県	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	青森市	弘前市	八戸市	黒石市	五所川原市	十和田市	三沢市	むつ市	つがる市	平川市
受診率	8.7%	12.1%	6.1%	12.0%	12.5%	20.9%	15.2%	13.7%	5.1%	6.2%	11.0%	17.1%	13.9%	13.2%	9.5%	12.3%	26.9%	20.9%
順位	—	—	—	—	—	—	—	—	40位	39位	36位	25位	31位	32位	37位	35位	5位	16位
受診者数	5,237,242	77,623	9,519	16,767	19,873	13,524	12,962	4,978	7,370	5,165	12,475	2,874	3,840	4,103	1,726	3,498	4,308	3,223
対象者数	59,875,643	640,600	155,381	139,599	159,621	64,686	85,000	36,313	143,676	83,827	113,062	16,808	27,548	31,172	18,092	28,429	16,033	15,394
区分	平内町	今別町	蓬田村	外ヶ浜町	鱒ヶ沢町	深浦町	西目屋村	藤崎町	大鰐町	田舎館村	板柳町	鶴田町	中泊町	野辺地町	七戸町	六戸町	横浜町	東北町
受診率	16.0%	20.6%	21.2%	20.4%	21.5%	25.6%	36.6%	25.3%	22.5%	22.8%	20.9%	33.0%	20.3%	14.6%	20.5%	16.2%	20.2%	26.7%
順位	27位	18位	14位	20位	13位	7位	1位	8位	12位	11位	17位	2位	21位	29位	19位	26位	22位	6位
受診者数	928	276	302	643	1,072	1,077	229	1,861	1,104	875	1,436	2,103	1,124	984	1,641	867	443	2,311
対象者数	5,794	1,340	1,424	3,147	4,979	4,199	625	7,343	4,897	3,834	6,871	6,377	5,550	6,728	8,002	5,344	2,191	8,656
区分	六ヶ所村	おいらせ町	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	三戸町	五戸町	田子町	南部町	階上町	新郷村						
受診率	18.4%	14.3%	18.5%	15.7%	27.0%	20.9%	8.6%	12.5%	23.1%	23.3%	13.1%	30.9%	[受診率の計算方法について]					
順位	24位	30位	23位	28位	4位	15位	38位	34位	10位	9位	33位	3位	受診者数÷対象者数=受診率					
受診者数	887	1,761	503	486	272	219	436	1,107	643	2,133	944	374	※他のプロセス指標に合わせ、75歳未満の受診率を計算					
対象者数	4,815	12,304	2,726	3,105	1,007	1,046	5,046	8,874	2,787	9,157	7,180	1,211	しているため他の統計の受診率と異なる。					

(出典：R元年度地域保健・健康増進事業報告) ※対象者数(分母)は対象年齢の全住民で、受診者数(分子)は市町村事業の受診者数であり、職域や人間ドックで受診している者は含まれていない。

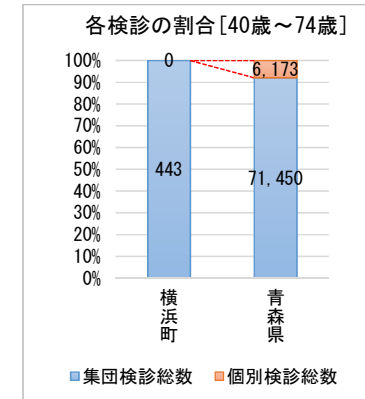
2. 肺がん検診の受診者の状況



<肺がん検診の年齢階級別の受診者数・受診率 [令和元年度 男女計]>

区分	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	40～69歳	40～74歳
横浜市 対象者数	220	290	295	275	313	402	396	1,006		3,197	1,795	2,191
横浜市 受診者数	19	24	38	38	59	115	150	89	75	607	293	443
横浜市 初回受診者数	12	6	16	10	13	24	28	13	13	135	81	109
横浜市 非初回受診者数	7	18	22	28	46	91	122	76	62	472	212	334
横浜市 受診歴不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横浜市 受診率	8.6%	8.3%	12.9%	13.8%	18.8%	28.6%	37.9%	16.3%		19.0%	16.3%	20.2%
青森県 対象者数	80,973	88,159	85,011	87,707	94,032	107,348	97,370	216,471		857,071	543,230	640,600
青森県 受診者数	4,235	4,285	5,120	6,874	11,833	21,578	23,698	15,690	11,461	104,774	53,925	77,623
青森県 初回受診者数	2,168	1,449	1,678	1,797	3,147	4,627	4,207	3,519	2,551	25,143	14,866	19,073
青森県 非初回受診者数	1,920	2,722	3,333	4,938	8,459	16,588	19,214	11,993	8,782	77,949	37,960	57,174
青森県 受診歴不明	147	114	109	139	227	363	277	178	128	1,682	1,099	1,376
青森県 受診率	5.2%	4.9%	6.0%	7.8%	12.6%	20.1%	24.3%	12.5%		12.2%	9.9%	12.1%

※初回受診者＝前年に受診歴がない者
 ※非初回受診者＝前年に受診歴がある者



※受診者数はR元年度の受診者数である。

※初回受診者数と非初回受診者数の合計が受診者数と一致しない、または初回受診者数と非初回受診者数を計上していない市町村があるため、そのような場合は受診歴不明として計上している。

※対象者数から受診者数を除いた人数を未受診者数と定義しているが、実際は職場や人間ドック等でがん検診を受診している者が含まれている。

個別事項「プロセス指標」 (別紙7とは対象年度が異なる点に留意)

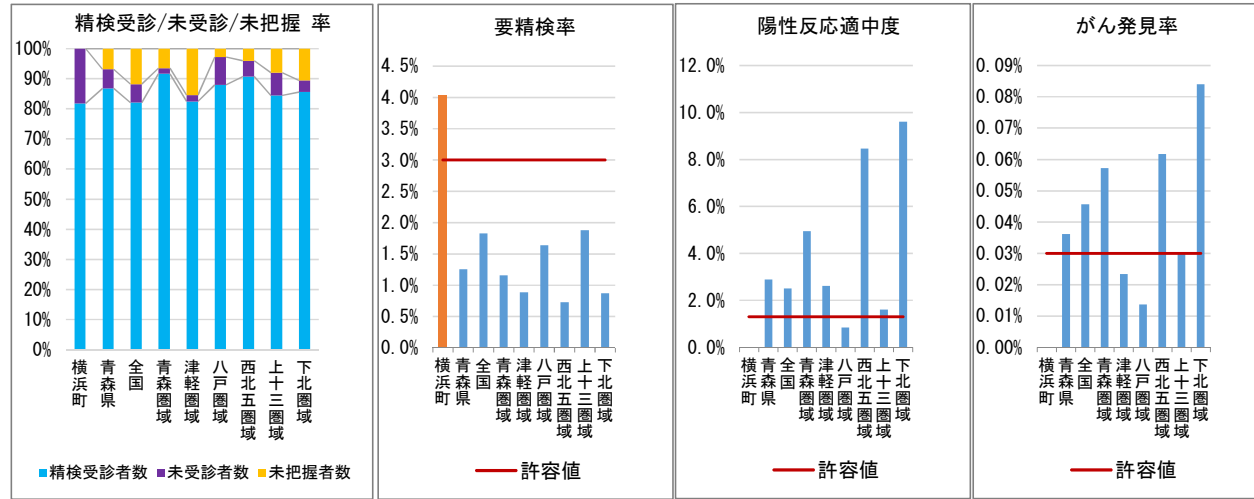
別紙7_参考2

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
[令和4年2月3日付け青が生第1693号通知]

平成28～30年度 肺がん検診プロセス指標 - 受診率を除く -

自治体名	横浜市
------	-----

1. 肺がん検診のプロセス指標 (受診率を除く)



※許容値以下で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと

<肺がん検診のプロセス指標 [平成28～30年度 40歳～74歳 男女計]>

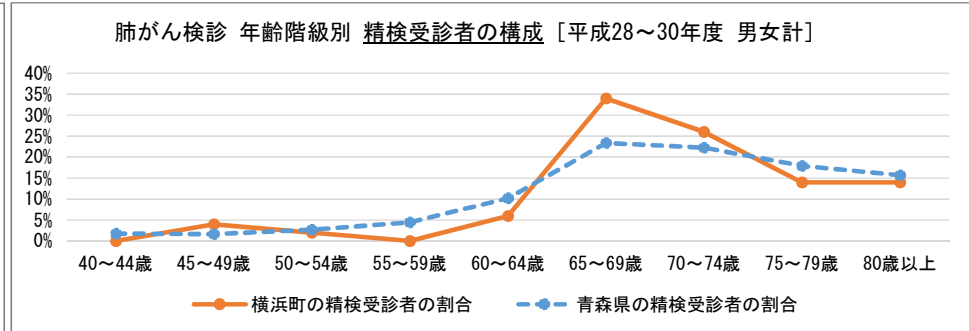
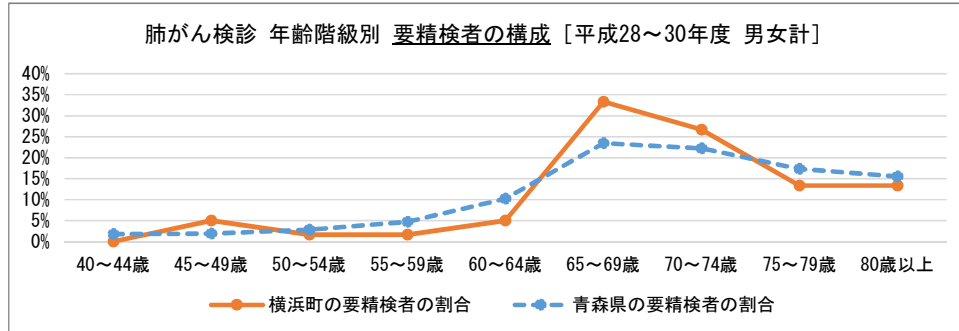
区分	横浜市	青森県	全国	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	許容値
受診者数	1,091	196,009	13,018,140	22,711	42,880	51,223	34,016	33,266	11,913	—
要精検者数	44	2,461	237,696	263	382	839	248	625	104	—
未把握者数	0	170	28,036	17	59	23	10	50	11	—
未受診者数	8	155	14,554	5	8	78	13	47	4	—
精検受診者数	36	2,136	195,106	241	315	738	225	528	89	—
がんであった者	0	71	5,954	13	10	7	21	10	10	—
要精検率	4.0%	1.3%	1.8%	1.2%	0.9%	1.6%	0.7%	1.9%	0.9%	3.0% 以下
精検受診率	81.8%	86.8%	82.1%	91.6%	82.5%	88.0%	90.7%	84.5%	85.6%	70% 以上
未受診率	18.2%	6.3%	6.1%	1.9%	2.1%	9.3%	5.2%	7.5%	3.8%	20% 以下
未把握率	0.0%	6.9%	11.8%	6.5%	15.4%	2.7%	4.0%	8.0%	10.6%	10% 以下
陽性反応適中度	0.0%	2.9%	2.5%	4.9%	2.6%	0.8%	8.5%	1.6%	9.6%	1.3% 以上
がん発見率	0.00%	0.04%	0.05%	0.06%	0.02%	0.01%	0.06%	0.03%	0.08%	0.03% 以上

指標の意義・一般的な対策	
精検受診率 未受診率 未把握率	<ul style="list-style-type: none"> 要精検者の精検受診状況を測る指標です。 精検受診率が低ければ、死亡率減少につながらないため、検診受診率よりも精検受診率向上が優先されます。また、100%に近くなければ、がん発見率等を適切に評価できません。 精検結果回収の仕組みを整備し、精検未受診・未把握を適切に分類して、精検受診勧奨に取り組むことで、精検受診率100%に向けて取り組む必要があります。
要精検率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、精密検査の対象者が適切に絞られているかを測る指標です。対象集団に応じて適切な範囲があり、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 要精検率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
陽性反応適中度	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 陽性反応適中度が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
がん発見率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、適正な頻度でがんを発見できたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 がん発見率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。

[計算方法] ●要精検率=精検受診者数÷受診者数、●精検受診率=精検受診者数÷要精検者数、●未受診率=未受診者数÷要精検者数、●未把握率=未把握者数÷要精検者数、●陽性反応適中度=がんであった者÷要精検者数、●がん発見率=がんであった者÷受診者数

(出典：H29～R元年度地域保健・健康増進事業報告)

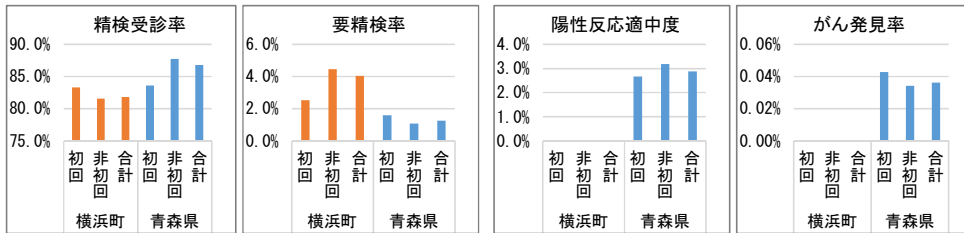
2. 肺がん検診の年齢階級別・受診歴別・検診方式別のプロセス指標



<肺がん検診の年齢階級別の要精検者数・精検受診者数・精検受診率 [平成28～30年度 男女計] >

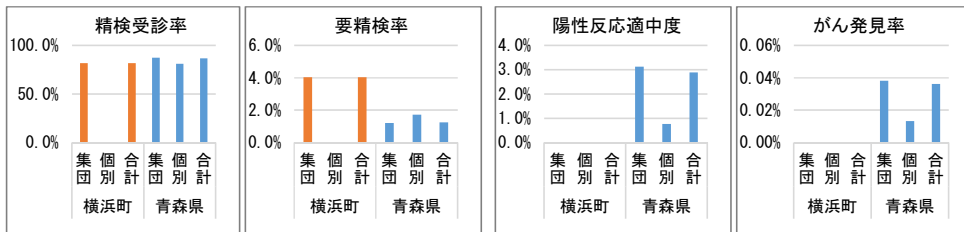
区分	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	40～74歳
横浜市 要精検者数	0	3	1	1	3	20	16	8	8	60	44
横浜市 精検受診者数	0	2	1	0	3	17	13	7	7	50	36
横浜市 精検受診率	0.0%	66.7%	100.0%	0.0%	100.0%	85.0%	81.3%	87.5%	87.5%	83.3%	81.8%
青森県 要精検者数	65	69	104	173	375	860	815	635	569	3,665	2,461
青森県 精検受診者数	57	53	86	144	328	752	716	576	505	3,217	2,136
青森県 精検受診率	87.7%	76.8%	82.7%	83.2%	87.5%	87.4%	87.9%	90.7%	88.8%	87.8%	86.8%

<肺がん検診の受診歴別のプロセス指標 [平成28～30年度 40歳～74歳 男女計] >



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
横浜市 初回	238	6	5	0	2.5%	83.3%	0.0%	0.00%
横浜市 非初回	853	38	31	0	4.5%	81.6%	0.0%	0.00%
横浜市 合計	1,091	44	36	0	4.0%	81.8%	0.0%	0.00%
青森県 初回	49,093	788	659	21	1.6%	83.6%	2.7%	0.04%
青森県 非初回	137,443	1,479	1,298	47	1.1%	87.8%	3.2%	0.03%
青森県 合計	196,009	2,461	2,136	71	1.3%	86.8%	2.9%	0.04%

<肺がん検診の検診方式別のプロセス指標 [平成28～30年度 40歳～74歳 男女計] >



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
横浜市 集団検診	1,091	44	36	0	4.0%	81.8%	0.0%	0.00%
横浜市 個別検診	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%
横浜市 合計	1,091	44	36	0	4.0%	81.8%	0.0%	0.00%
青森県 集団検診	180,867	2,201	1,925	69	1.2%	87.5%	3.1%	0.04%
青森県 個別検診	15,142	260	211	2	1.7%	81.2%	0.8%	0.01%
青森県 合計	196,009	2,461	2,136	71	1.3%	86.8%	2.9%	0.04%

(出典：H29～R元年度地域保健・健康増進事業報告)

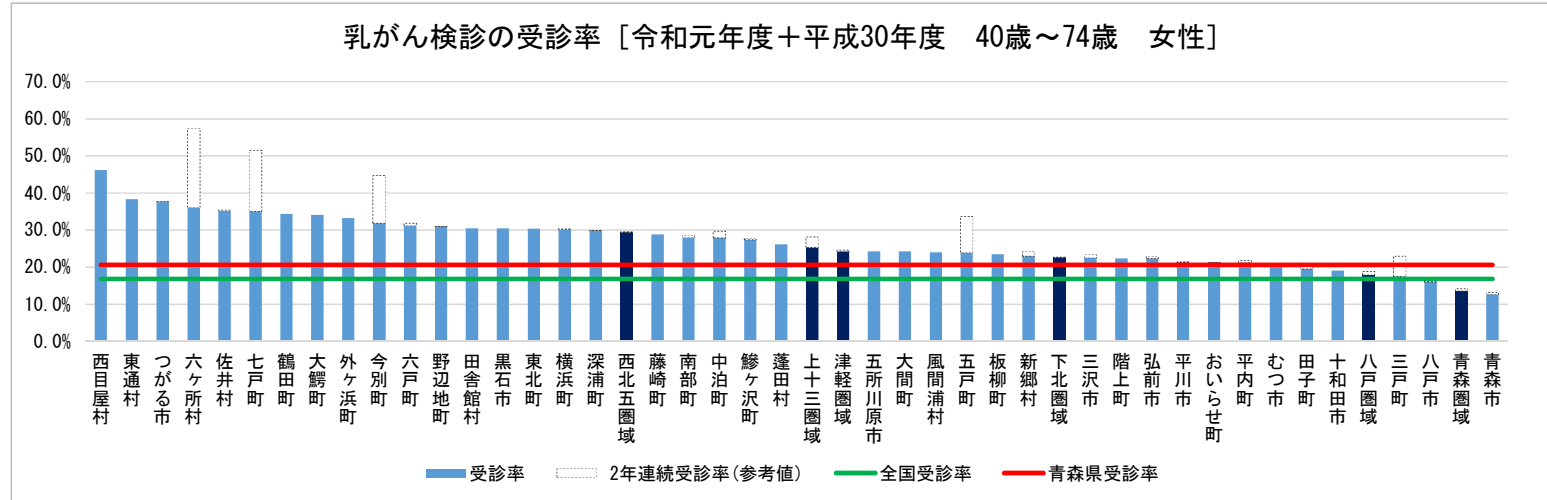
個別事項「プロセス指標」

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
[令和4年2月3日付け青が生第1693号通知]

令和元年度 乳がん検診プロセス指標 - 受診率 -

自治体名 **横浜市**

1. 乳がん検診の受診率



指標の意義・一般的な対策

- ・受診率は、高い方が望ましい指標です。受診間隔（2年に1回）を遵守し、精度管理により検診の質を高めた上で、受診率を上げていく必要があります。
- ・性別・年齢階級別/検診機関別/検診歴別（初回・非初回別）の集計・分析は、課題を検討し、対策を講じるうえで必要となるため、台帳の電子システム化等により行えるようにすることが必要です。
- ・特定の年齢層の受診率が低い場合や、初回受診者が少ない場合、個別の受診勧奨・再勧奨の実施や、検診の提供体制（キャパシティ、利便性等）の改善について検討が必要です。

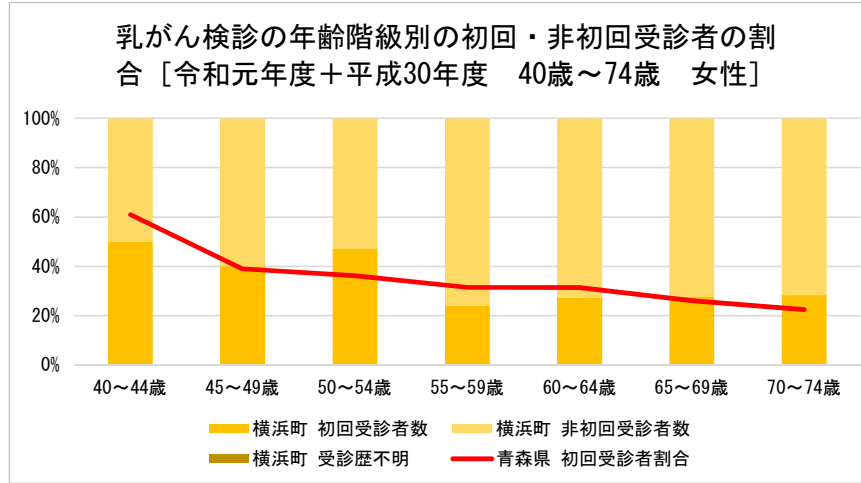
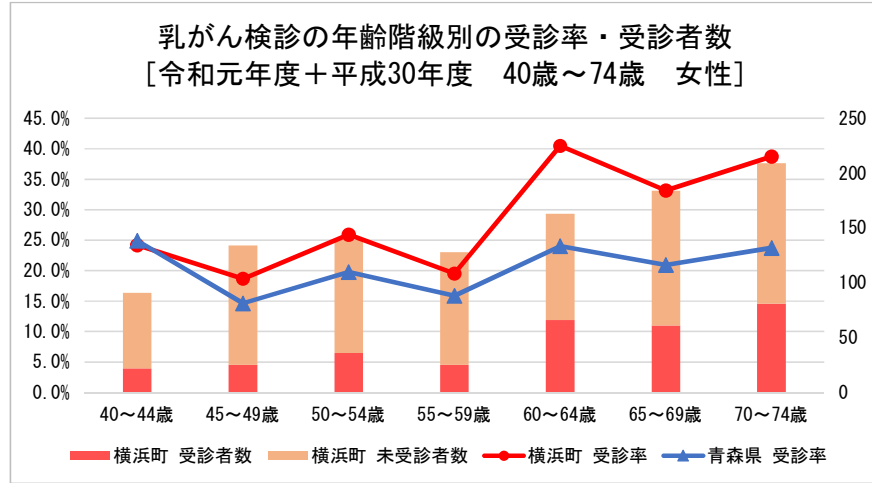
<乳がん検診の受診率 [令和元年度+平成30年度 40歳~74歳 女性]>

区分	全国	青森県	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	青森市	弘前市	八戸市	黒石市	五所川原市	十和田市	三沢市	むつ市	つがる市	平川市
受診率	16.8%	20.6%	13.6%	24.3%	17.9%	29.4%	25.3%	22.6%	12.6%	22.3%	16.0%	30.5%	24.2%	19.1%	22.5%	20.5%	37.5%	21.2%
順位	—	—	—	—	—	—	—	—	40位	31位	39位	14位	23位	37位	29位	35位	3位	32位
受診者数	5,073,924	67,832	10,991	17,803	14,464	9,790	10,716	4,068	9,484	9,955	9,237	2,654	3,536	3,038	2,041	2,943	3,064	1,693
対象者数	30,150,896	328,697	80,821	73,325	80,813	33,331	42,401	18,006	75,067	44,572	57,856	8,713	14,587	15,906	9,080	14,379	8,160	7,973
区分	平内町	今別町	蓬田村	外ヶ浜町	鱈ヶ沢町	深浦町	西目屋村	藤崎町	大鰐町	田舎館村	板柳町	鶴田町	中泊町	野辺地町	七戸町	六戸町	横浜町	東北町
受診率	21.1%	31.9%	26.1%	33.3%	27.3%	29.9%	46.2%	28.8%	34.1%	30.5%	23.4%	34.4%	27.9%	30.9%	35.1%	31.2%	30.2%	30.4%
順位	34位	10位	22位	9位	21位	17位	1位	18位	8位	13位	27位	7位	20位	12位	6位	11位	16位	15位
受診者数	605	204	189	509	687	623	133	1,078	855	596	839	1,115	765	1,050	1,380	819	316	1,281
対象者数	2,862	640	723	1,529	2,512	2,084	288	3,737	2,508	1,956	3,578	3,244	2,744	3,393	3,937	2,623	1,048	4,219
区分	六ヶ所村	おいらせ町	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	三戸町	五戸町	田子町	南部町	階上町	新郷村						
受診率	36.0%	21.1%	24.2%	38.3%	24.0%	35.2%	17.4%	23.9%	19.5%	28.0%	22.4%	22.9%						
順位	4位	33位	24位	2位	25位	5位	38位	26位	36位	19位	30位	28位						
受診者数	791	1,312	312	535	116	162	432	1,039	266	1,279	771	128						
対象者数	2,195	6,205	1,288	1,396	483	460	2,477	4,341	1,363	4,568	3,445	558						

[受診率の計算方法について]
 $(R\text{元年度の受診者数} - R\text{元年度の2年連続受診者数} + H30\text{年度の受診者数}) \div R\text{元年度の対象者数} = \text{受診率}$
 ※他のプロセス指標に合わせ、75歳未満の受診率を計算しているため他の統計の受診率と異なる。

(出典：R元年度地域保健・健康増進事業報告) ※対象者数(分母)は対象年齢の全住民で、受診者数(分子)は市町村事業の受診者数であり、職域や人間ドックで受診している者は含まれていない。

2. 乳がん検診の受診者の状況



<乳がん検診の年齢階級別の受診者数・受診率 [令和元年度+平成30年度 女性]>

区分		40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	40～69歳	40～74歳
横浜町	対象者数	91	134	139	128	163	184	209			1,048	839	1,048
横浜町	受診者数	22	25	36	25	66	61	81	32	27	375	235	316
横浜町	初回受診者数	11	10	17	6	18	17	23	7	8	117	79	102
横浜町	非初回受診者数	11	15	19	19	48	44	58	25	19	258	156	214
横浜町	受診歴不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横浜町	受診率	24.2%	18.7%	25.9%	19.5%	40.5%	33.2%	38.8%				28.0%	30.2%
青森県	対象者数	39,857	43,884	43,174	44,754	48,650	56,062	52,316			328,697	276,381	328,697
青森県	受診者数	9,927	6,428	8,539	7,108	11,678	11,733	12,419	5,531	2,848	76,211	55,413	67,832
青森県	初回受診者数	6,049	2,502	3,092	2,235	3,661	3,062	2,786	1,261	802	25,450	20,601	23,387
青森県	非初回受診者数	3,627	3,755	5,231	4,695	7,737	8,388	9,377	4,179	1,992	48,981	33,433	42,810
青森県	受診歴不明	251	171	216	178	280	283	256	91	54	1,780	1,379	1,635
青森県	受診率	24.9%	14.6%	19.8%	15.9%	24.0%	20.9%	23.7%				20.0%	20.6%

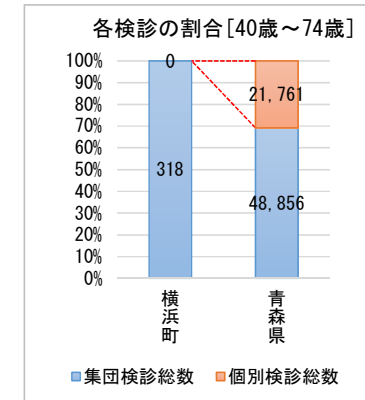
※受診者数はR元年度とH30年度の受診者数の合計からR元年度の2年連続受診者数を除いた人数である。

※初回受診者数と非初回受診者数の合計が受診者数と一致しない、または初回受診者数と非初回受診者数を計上していない市町村があるため、そのような場合は受診歴不明として計上している。

※対象者数から受診者数を除いた人数を未受診者数と定義しているが、実際は職場や人間ドック等でがん検診を受診している者が含まれている。

※初回受診者＝過去3年間に受診歴がない者

※非初回受診者＝過去3年間に受診歴がある者

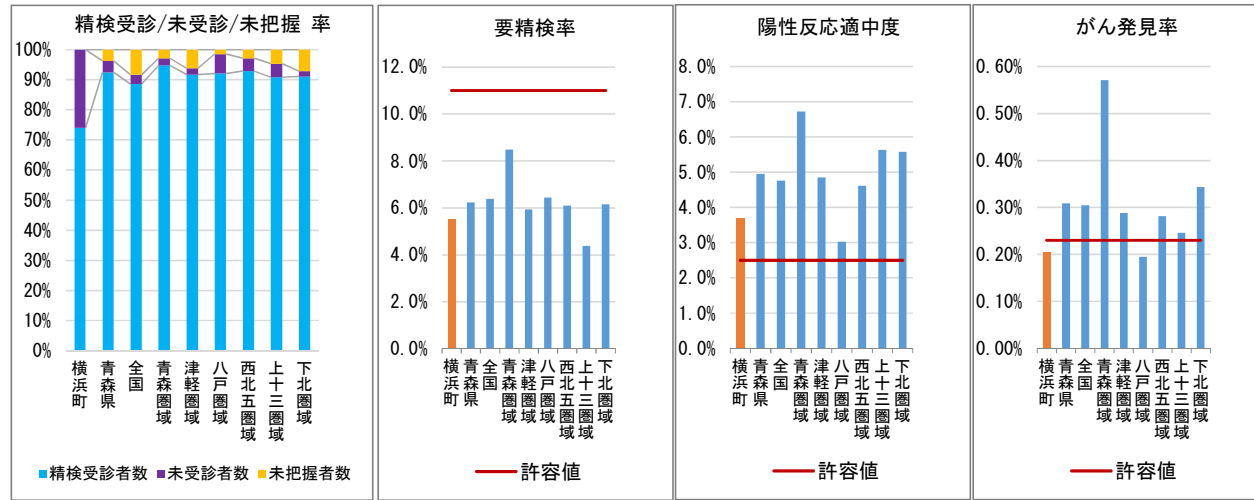


個別事項「プロセス指標」 (別紙8とは対象年度が異なる点に留意)

平成28～30年度 乳がん検診プロセス指標 - 受診率を除く -

自治体名	横浜町
------	-----

1. 乳がん検診のプロセス指標 (受診率を除く)



※許容値以下で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと

<乳がん検診のプロセス指標 [平成28～30年度 40歳～74歳 女性]>

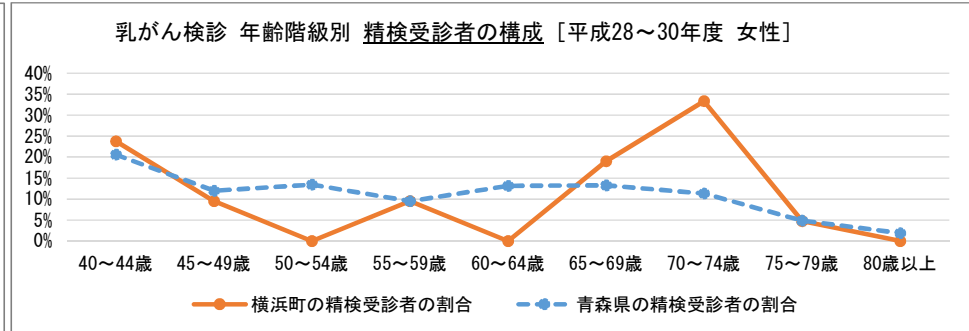
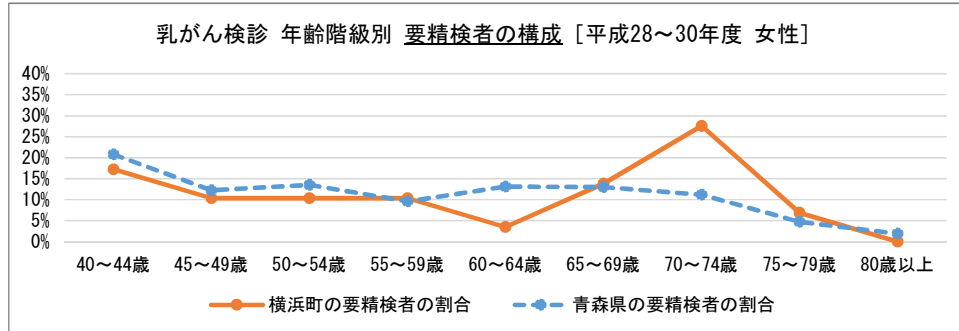
区分	横浜町	青森県	全国	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	許容値
受診者数	489	107,829	8,555,748	17,510	26,705	23,633	15,293	18,279	6,409	—
要精検者数	27	6,722	546,674	1,487	1,586	1,524	932	799	394	—
未把握者数	0	255	45,485	42	99	22	27	37	28	—
未受診者数	7	249	16,908	36	32	99	39	36	7	—
精検受診者数	20	6,218	484,281	1,409	1,455	1,403	866	726	359	—
がんであった者	1	333	26,026	100	77	46	43	45	22	—
要精検率	5.5%	6.2%	6.4%	8.5%	5.9%	6.4%	6.1%	4.4%	6.1%	11.0% 以下
精検受診率	74.1%	92.5%	88.6%	94.8%	91.7%	92.1%	92.9%	90.9%	91.1%	80% 以上
未受診率	25.9%	3.7%	3.1%	2.4%	2.0%	6.5%	4.2%	4.5%	1.8%	10% 以下
未把握率	0.0%	3.8%	8.3%	2.8%	6.2%	1.4%	2.9%	4.6%	7.1%	10% 以下
陽性反応適中度	3.7%	5.0%	4.8%	6.7%	4.9%	3.0%	4.6%	5.6%	5.6%	2.5% 以上
がん発見率	0.20%	0.31%	0.30%	0.57%	0.29%	0.19%	0.28%	0.25%	0.34%	0.23% 以上

[計算方法] ●要精検率=精検受診者数÷受診者数、●精検受診率=精検受診者数÷要精検者数、●未受診率=未受診者数÷要精検者数、●未把握率=未把握者数÷要精検者数、●陽性反応適中度=がんであった者÷要精検者数、●がん発見率=がんであった者÷受診者数

(出典：H29～R元年度地域保健・健康増進事業報告)

指標の意義・一般的な対策	
精検受診率 未受診率 未把握率	<ul style="list-style-type: none"> 要精検者の精検受診状況を測る指標です。 精検受診率が低ければ、死亡率減少につながらないため、検診受診率よりも精検受診率向上が優先されます。また、100%に近くなければ、がん発見率等を適切に評価できません。 精検結果回収の仕組みを整備し、精検未受診・未把握を適切に分類して、精検受診動員に取り組むことで、精検受診率100%に向けて取り組む必要があります。
要精検率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、精密検査の対象者が適切に絞られているかを測る指標です。対象集団に応じて適切な範囲があり、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 要精検率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
陽性反応適中度	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 陽性反応適中度が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
がん発見率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、適正な頻度でがんを発見できたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 がん発見率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。

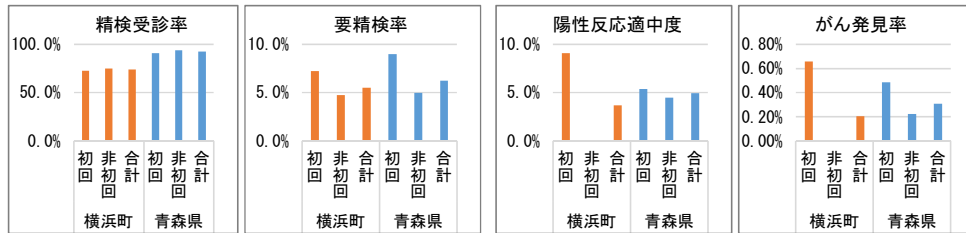
2. 乳がん検診の年齢階級別・受診歴別・検診方式別のプロセス指標



<乳がん検診の年齢階級別の要精検者数・精検受診者数・精検受診率 [平成28~30年度 女性]>

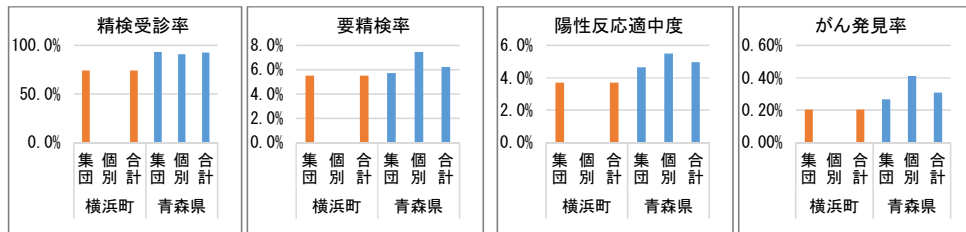
区分	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80歳以上	合計	40~74歳
横浜市 要精検者数	5	3	3	3	1	4	8	2	0	29	27
横浜市 精検受診者数	5	2	0	2	0	4	7	1	0	21	20
横浜市 精検受診率	100.0%	66.7%	0.0%	66.7%	0.0%	100.0%	87.5%	50.0%	0.0%	72.4%	74.1%
青森県 要精検者数	1,496	881	975	689	944	934	803	339	136	7,197	6,722
青森県 精検受診者数	1,373	798	897	632	877	886	755	323	126	6,667	6,218
青森県 精検受診率	91.8%	90.6%	92.0%	91.7%	92.9%	94.9%	94.0%	95.3%	92.6%	92.6%	92.5%

<乳がん検診の受診歴別のプロセス指標 [平成28~30年度 40歳~74歳 女性]>



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
横浜市 初回	152	11	8	1	7.2%	72.7%	9.1%	0.66%
横浜市 非初回	337	16	12	0	4.7%	75.0%	0.0%	0.00%
横浜市 合計	489	27	20	1	5.5%	74.1%	3.7%	0.20%
青森県 初回	35,320	3,178	2,892	171	9.0%	91.0%	5.4%	0.48%
青森県 非初回	68,888	3,440	3,229	154	5.0%	93.9%	4.5%	0.22%
青森県 合計	107,829	6,722	6,218	333	6.2%	92.5%	5.0%	0.31%

<乳がん検診の検診方式別のプロセス指標 [平成28~30年度 40歳~74歳 女性]>



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
横浜市 集団検診	489	27	20	1	5.5%	74.1%	3.7%	0.20%
横浜市 個別検診	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%
横浜市 合計	489	27	20	1	5.5%	74.1%	3.7%	0.20%
青森県 集団検診	76,469	4,380	4,088	204	5.7%	93.3%	4.7%	0.27%
青森県 個別検診	31,360	2,342	2,130	129	7.5%	90.9%	5.5%	0.41%
青森県 合計	107,829	6,722	6,218	333	6.2%	92.5%	5.0%	0.31%

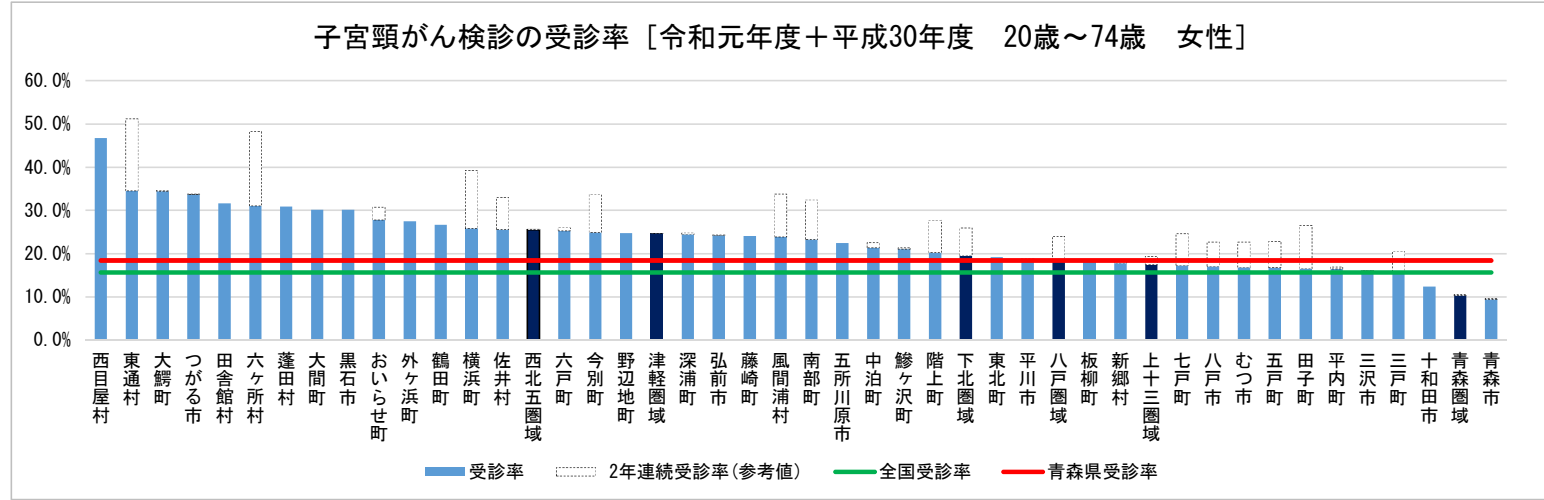
個別事項「プロセス指標」

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
 [令和4年2月3日付け青が生第1693号通知]

令和元年度 子宮頸がん検診プロセス指標 - 受診率 -

自治体名 **横浜市**

1. 子宮頸がん検診の受診率



指標の意義・一般的な対策

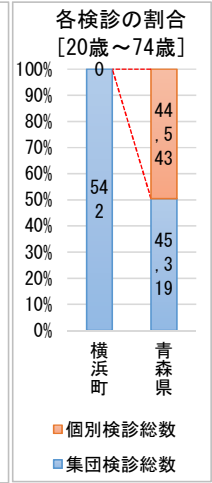
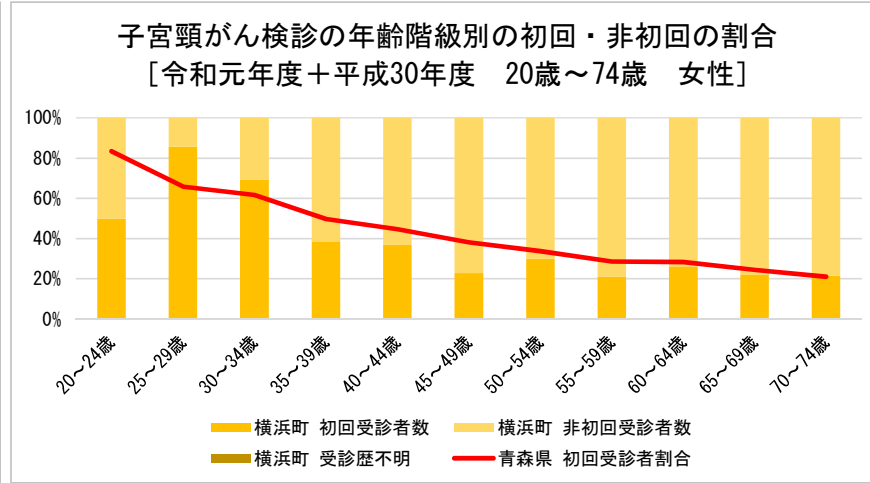
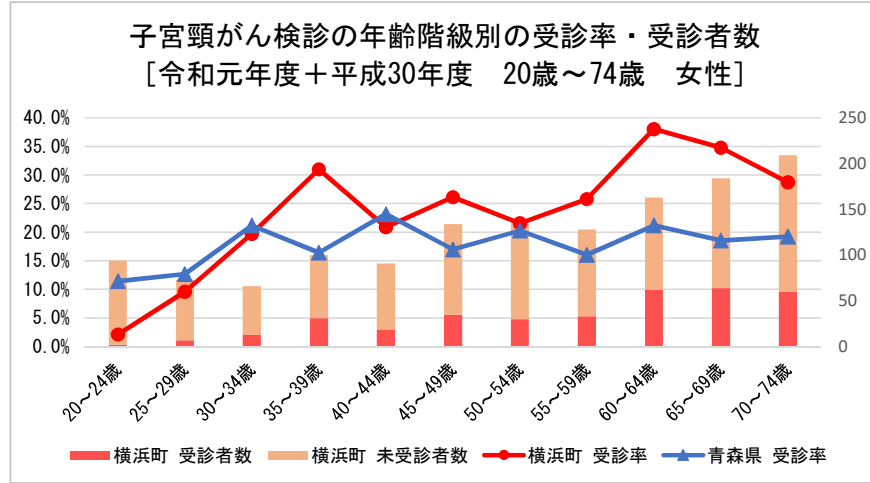
- ・受診率は、高い方が望ましい指標です。受診間隔（2年に1回）を遵守し、精度管理により検診の質を高めた上で、受診率を上げていく必要があります。
- ・性別・年齢階級別／検診機関別／検診歴別（初回・非初回別）の集計・分析は、課題を検討し、対策を講じるうえで必要となるため、台帳の電子システム化等により行えるようにすることが必要です。
- ・特定の年齢層の受診率が低い場合や、初回受診者が少ない場合、個別の受診勧奨・再勧奨の実施や、検診の提供体制（キャパシティ、利便性等）の改善について検討が必要です。

<子宮頸がん検診の受診率 [令和元年度+平成30年度 20歳~74歳 女性] >

区分	全国	青森県	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	青森市	弘前市	八戸市	黒石市	五所川原市	十和田市	三沢市	むつ市	つがる市	平川市
受診率	15.6%	18.4%	10.3%	24.6%	18.3%	25.5%	17.4%	19.5%	9.5%	24.3%	17.1%	30.1%	22.5%	12.4%	16.0%	16.8%	33.8%	18.8%
順位	—	—	—	—	—	—	—	—	40位	19位	32位	9位	23位	39位	37位	33位	4位	28位
受診者数	6,815,592	80,729	11,117	24,339	19,854	10,842	9,959	4,618	9,554	14,756	13,360	3,484	4,257	2,614	2,121	3,191	3,476	1,989
対象者数	43,573,107	438,310	108,012	98,739	108,217	42,459	57,222	23,661	100,920	60,811	78,158	11,566	18,961	21,024	13,271	18,989	10,298	10,601
区分	平内町	今別町	蓬田村	外ヶ浜町	鱈ヶ沢町	深浦町	西目屋村	藤崎町	大鰐町	田舎館村	板柳町	鶴田町	中泊町	野辺地町	七戸町	六戸町	横浜市	東北町
受診率	16.5%	24.9%	30.9%	27.4%	21.1%	24.4%	46.7%	24.1%	34.5%	31.6%	17.9%	26.6%	21.4%	24.8%	17.3%	25.3%	25.8%	19.2%
順位	36位	16位	7位	11位	25位	18位	1位	20位	3位	5位	29位	12位	24位	17位	31位	15位	13位	27位
受診者数	592	187	282	502	655	612	179	1,227	1,061	807	836	1,117	725	1,080	866	900	356	1,057
対象者数	3,598	752	913	1,829	3,109	2,505	383	5,087	3,079	2,553	4,659	4,193	3,393	4,360	5,020	3,560	1,381	5,500
区分	六ヶ所村	おいらせ町	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	三戸町	五戸町	田子町	南部町	階上町	新郷村	[受診率の計算方法について]					
受診率	31.1%	27.8%	30.1%	34.5%	23.8%	25.6%	15.8%	16.7%	16.5%	23.3%	20.2%	17.8%	(R年度の受診者数-R年度の2年連続受診者数+H30年度の受診者数)÷R年度の対象者数=受診率					
順位	6位	10位	8位	2位	21位	14位	38位	34位	35位	22位	26位	30位	※他のプロセス指標に合わせ、75歳未満の受診率を計算しているため他の統計の受診率と異なる。					
受診者数	965	2,389	504	639	139	145	492	935	283	1,361	911	123						
対象者数	3,106	8,596	1,672	1,850	583	567	3,120	5,586	1,714	5,846	4,506	691						

(出典：R元年度地域保健・健康増進事業報告) ※対象者数(分母)は対象年齢の全住民で、受診者数(分子)は市町村事業の受診者数であり、職域や人間ドックで受診している者は含まれていない。

2. 子宮頸がん検診の受診者の状況



<子宮頸がん検診の年齢階級別の受診者数・受診率 [令和元年度+平成30年度 女性]>

※初回受診者＝過去3年間に受診歴がない者、非初回受診者＝過去3年間に受診歴がある者

区分		20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	20～69歳	20～74歳
横浜町	対象者数	94	73	66	100	91	134	139	128	163	184	209	645	2,026	1,172	1,381	
横浜町	受診者数	2	7	13	31	19	35	30	33	62	64	60	41	22	419	296	356
横浜町	初回受診者数	1	6	9	12	7	8	9	7	16	14	13	7	2	111	89	102
横浜町	非初回受診者数	1	1	4	19	12	27	21	26	46	50	47	34	20	308	207	254
横浜町	受診歴不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横浜町	受診率	2.1%	9.6%	19.7%	31.0%	20.9%	26.1%	21.6%	25.8%	38.0%	34.8%	28.7%	9.8%	20.7%	25.3%	25.8%	
青森県	対象者数	23,647	23,421	28,486	34,059	39,857	43,884	43,174	44,754	48,650	56,062	52,316	139,071	577,381	385,994	438,310	
青森県	受診者数	2,703	2,968	6,032	5,602	9,240	7,468	8,754	7,185	10,294	10,411	10,072	4,946	2,417	88,092	70,657	80,729
青森県	初回受診者数	2,255	1,955	3,725	2,783	4,128	2,847	2,959	2,057	2,920	2,541	2,120	1,036	728	32,054	28,170	30,290
青森県	非初回受診者数	364	855	2,091	2,585	4,729	4,326	5,492	4,851	7,038	7,540	7,692	3,804	1,631	52,998	39,871	47,563
青森県	受診歴不明	84	158	216	234	383	295	303	277	336	330	260	106	58	3,040	2,616	2,876
青森県	受診率	11.4%	12.7%	21.2%	16.4%	23.2%	17.0%	20.3%	16.1%	21.2%	18.6%	19.3%	5.3%	15.3%	18.3%	18.4%	

※受診者数はR元年度とH30年度の受診者数の合計からR元年度の2年連続受診者数を除いた人数である。

※初回受診者数と非初回受診者数の合計が受診者数と一致しない、または初回受診者数と非初回受診者数を計上していない市町村があるため、そのような場合は受診歴不明として計上している。

※対象者数から受診者数を除いた人数を未受診者数と定義しているが、実際は職場や人間ドック等ががん検診を受診している者が含まれている。

個別事項「プロセス指標」 (別紙9とは対象年度が異なる点に留意)

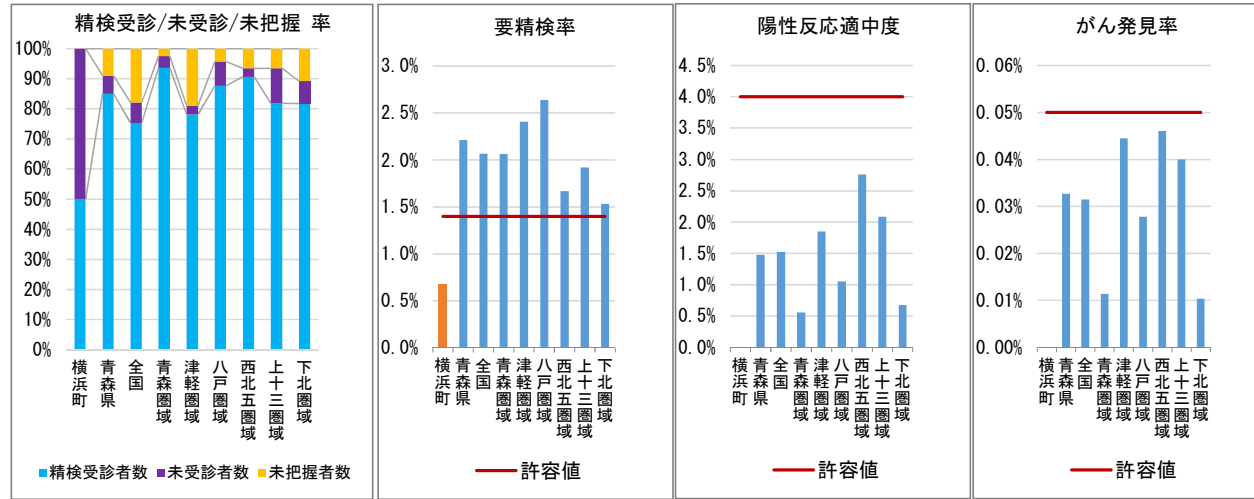
別紙9_参考2

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
[令和4年2月3日付け青が生第1693号通知]

平成28～30年度 子宮頸がん検診プロセス指標 - 受診率を除く -

自治体名	横浜市
------	-----

1. 子宮頸がん検診のプロセス指標 (受診率を除く)



※許容値以下で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと ※許容値以上で極端な高低がないこと

<子宮頸がん検診のプロセス指標 [平成28～30年度 20歳～74歳 女性]>

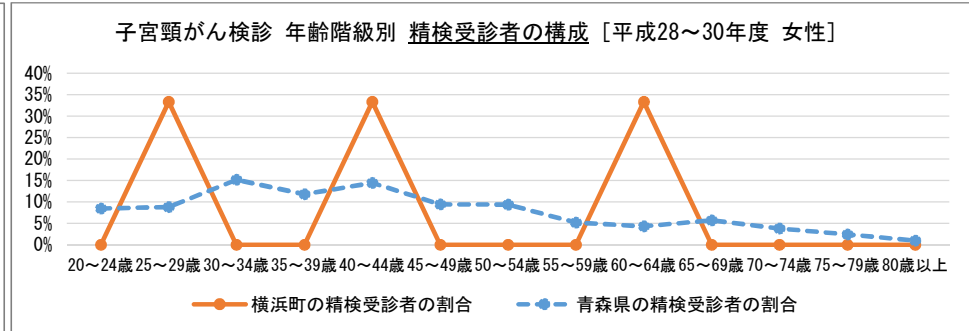
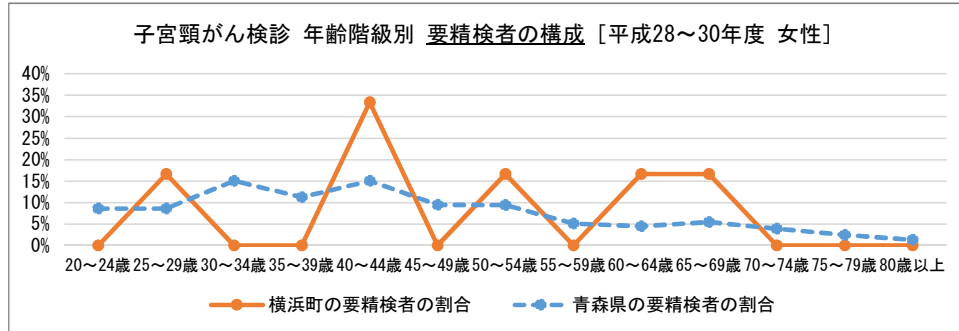
区分	横浜市	青森県	全国	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	許容値
受診者数	888	137,672	12,152,048	17,565	35,956	39,606	17,373	17,506	9,666	—
要精検者数	6	3,047	251,176	362	866	1,045	290	336	148	—
未把握者数	0	274	44,951	9	164	44	19	22	16	—
未受診者数	3	182	16,895	14	25	85	8	39	11	—
精検受診者数	3	2,591	189,330	339	677	916	263	275	121	—
がんであった者	0	45	3,824	2	16	11	8	7	1	—
要精検率	0.7%	2.2%	2.1%	2.1%	2.4%	2.6%	1.7%	1.9%	1.5%	1.4% 以下
精検受診率	50.0%	85.0%	75.4%	93.6%	78.2%	87.7%	90.7%	81.8%	81.8%	70% 以上
未受診率	50.0%	6.0%	6.7%	3.9%	2.9%	8.1%	2.8%	11.6%	7.4%	20% 以下
未把握率	0.0%	9.0%	17.9%	2.5%	18.9%	4.2%	6.6%	6.5%	10.8%	10% 以下
陽性反応適中度	0.0%	1.5%	1.5%	0.6%	1.8%	1.1%	2.8%	2.1%	0.7%	4.0% 以上
がん発見率	0.00%	0.03%	0.03%	0.01%	0.04%	0.03%	0.05%	0.04%	0.01%	0.05% 以上

[計算方法] ●要精検率=精検受診者数÷受診者数、●精検受診率=精検受診者数÷要精検者数、●未受診率=未受診者数÷要精検者数、●未把握率=未把握者数÷要精検者数、●陽性反応適中度=がんであった者÷要精検者数、●がん発見率=がんであった者÷受診者数

(出典：H29～R元年度地域保健・健康増進事業報告)

指標の意義・一般的な対策	
精検受診率 未受診率 未把握率	<ul style="list-style-type: none"> 要精検者の精検受診状況を測る指標です。 精検受診率が低ければ、死亡率減少につながらないため、検診受診率よりも精検受診率向上が優先されます。また、100%に近くなければ、がん発見率等を適切に評価できません。 精検結果回収の仕組みを整備し、精検未受診・未把握を適切に分類して、精検受診勧奨に取り組むことで、精検受診率100%に向けて取り組む必要があります。
要精検率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、精密検査の対象者が適切に絞られているかを測る指標です。対象集団に応じて適切な範囲があり、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 要精検率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
陽性反応適中度	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 陽性反応適中度が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
がん発見率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、適正な頻度でがんを発見できたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 がん発見率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。

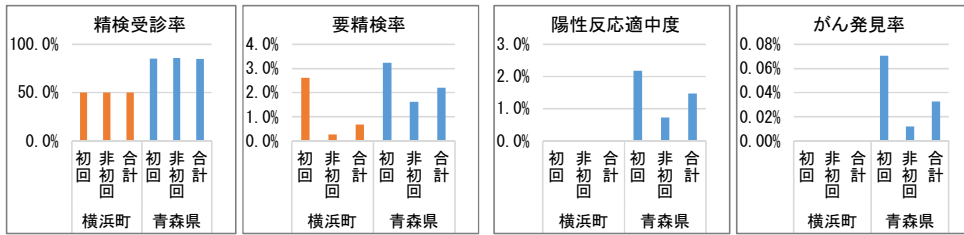
2. 子宮頸がん検診の年齢階級別・受診歴別・検診方式別のプロセス指標



<子宮頸がん検診の年齢階級別の要精検者数・精検受診者数・精検受診率 [平成28～30年度 女性] >

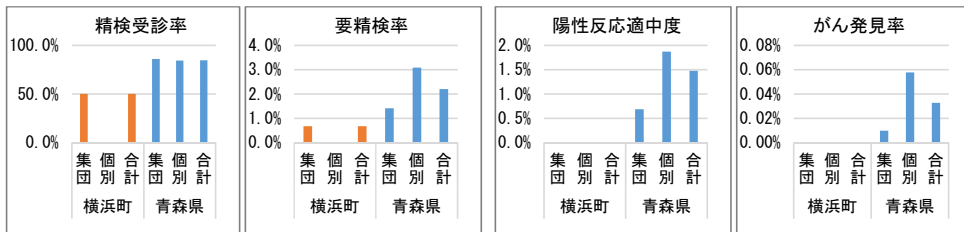
区分	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	20～74歳
横浜市 要精検者数	0	1	0	0	2	0	1	0	1	1	0	0	0	6	6
横浜市 精検受診者数	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3	3
横浜市 精検受診率	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
青森県 要精検者数	272	273	476	356	476	300	297	161	141	172	123	77	41	3,165	3,047
青森県 精検受診者数	228	236	407	317	387	254	252	139	116	153	102	66	27	2,684	2,591
青森県 精検受診率	83.8%	86.4%	85.5%	89.0%	81.3%	84.7%	84.8%	86.3%	82.3%	89.0%	82.9%	85.7%	65.9%	84.8%	85.0%

<子宮頸がん検診の受診歴別のプロセス指標 [平成28～30年度 20歳～74歳 女性] >



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
横浜市 初回	153	4	2	0	2.6%	50.0%	0.0%	0.00%
横浜市 非初回	735	2	1	0	0.3%	50.0%	0.0%	0.00%
横浜市 合計	888	6	3	0	0.7%	50.0%	0.0%	0.00%
青森県 初回	48,182	1,559	1,329	34	3.2%	85.2%	2.2%	0.07%
青森県 非初回	84,563	1,372	1,177	10	1.6%	85.8%	0.7%	0.01%
青森県 合計	137,672	3,047	2,591	45	2.2%	85.0%	1.5%	0.03%

<子宮頸がん検診の検診方式別のプロセス指標 [平成28～30年度 20歳～74歳 女性] >



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率
横浜市 集団検診	888	6	3	0	0.7%	50.0%	0.0%	0.00%
横浜市 個別検診	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.00%
横浜市 合計	888	6	3	0	0.7%	50.0%	0.0%	0.00%
青森県 集団検診	71,870	1,015	875	7	1.4%	86.2%	0.7%	0.01%
青森県 個別検診	65,802	2,032	1,716	38	3.1%	84.4%	1.9%	0.06%
青森県 合計	137,672	3,047	2,591	45	2.2%	85.0%	1.5%	0.03%